

# ナダ出版センター

## 出版総合目録

2022.8

【総販売元】

学術資料出版

大空社出版

- 明治期グリム童話翻訳集成.....[2]
- 日本におけるグリム童話翻訳書誌.....[3]
- 明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成.....[4]
- 日本におけるシャーロック・ホームズ.....[5]
- 黒岩涙香の研究と書誌 黒岩涙香著訳書総覧.....[6]
- 夏目漱石の研究と書誌.....[7]
- 日本におけるサミュエル・ジョンソンおよび  
ジェイムズ・ボズウェル文献目録(1871-2005)....[8]
- ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究.....[9]
- ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究 第2集.....[10]

〈ナダ書房〉マイクロフィルム版史料....[11]

マイクロフィルム版史料.....[12]

マイクロフィルム版史料 目録・解説.....[15]



文学・語学・翻訳文学  
社会科学  
軍隊  
産業・民芸・教育

〈共同出版〉

- [16]...明治翻訳文学全集《新聞雑誌編・翻訳家編》
- [18]...シェイクスピア翻訳文学書全集
- [19]...ボードレール 明治・大正期翻訳作品集  
「翻訳詩」事典 フランス編
- [20]...世界文学総合目録  
図説 翻訳文学総合事典  
図説 絵本・挿絵大事典
- [21]...図説 児童文学翻訳大事典  
児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成の  
135年翻訳目録
- [22]...資料集成 近代日本語〈形成と翻訳〉
- [23]...大正期翻訳文学画像集成・雑誌編 (CD-ROM)  
「翻訳と歴史」「鳴海文庫」  
\* \*
- [24]...〈ナダ出版センター〉ホームページについて

# 明治期グリム童話翻訳集成 全5巻

川戸道昭・榊原貴教 編

B5判・上製・総1,550頁・各巻口絵1頁 全5巻揃 4-901061-05-4 定価 96,800円 (本体 88,000円+税)

[企画：ナダ出版センター、発行：アイアールディー企画 1999.9刊]

\*残部僅少

- 明治期グリム童話の翻訳を、初期に翻訳されたもの、雑誌に掲載のものを中心に復刻（明治期に訳された約300点から167点を集録）。全翻訳作品の「KHM 分類別翻訳一覧表」「翻訳文学年表」を付す。



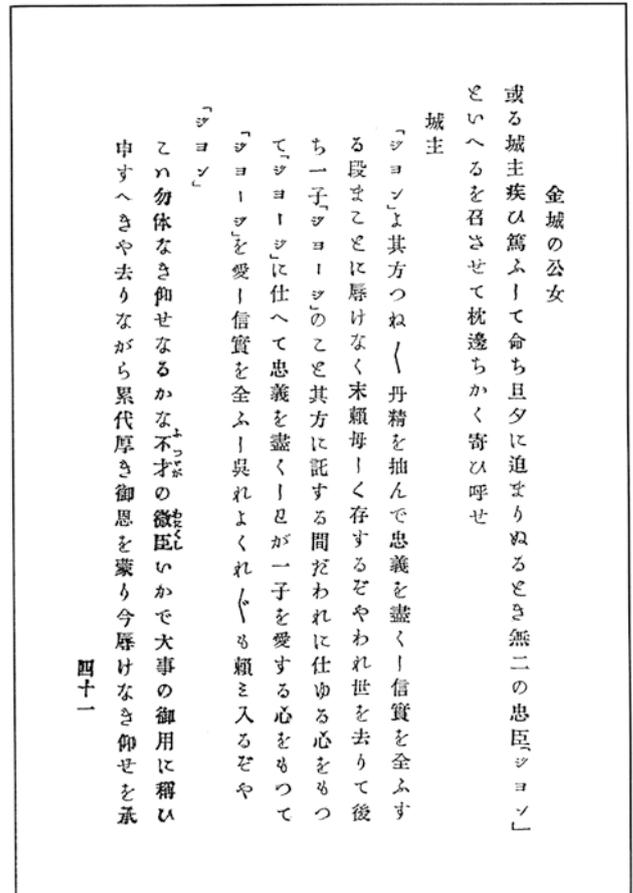
● 明治期のグリム童話翻訳の経緯をたどると、おおよそ三つの流れがある。一つは、最初の翻訳者である菅了法訳『西洋古事 神仙叢話』や洪江保訳『西洋妖怪奇談』のように、西欧世界を理解する系譜として現れた。もう一つの流れは、「女学雑誌」に紹介されていたものを読むとわかるが、西欧の上流社会を模倣した母親の子どもに対するしつけの物語としてグリムが受容される。この系譜はその後、婦人雑誌に継承されていった。三つ目の流れは、子どもに直接語りかける物語として「小国民」「幼年雑誌」「少年世界」などに意識・翻案され紹介された。このうち、西欧世界理解の系譜は歴史的役割を終えて影を薄くし、子どもに直接語りかける童話は、巖谷小波のお伽噺や小川未明の童話文学の登場により創作童話へと脱皮していった。そして、二十世紀の日本児童文学の母体となった。しつけの物語としてのグリム童話が、教育制度の確立により、学校教育の中で普及し定着していくことになる。

それから一世紀経つ。教育という啓蒙活動そのものが問われ始め、グリム兄弟によって完成された模範的な民話、すなわち日本人にとってはしつけの物語として定着してきたグリム童話に対する認識に揺れが生じた。グリム童話の初原を求めて、ヨーロッパ近代から中世への民俗的な心の旅がここから始まった。この旅の目的は、グリム童話改訂への関心という形で現れたが、実際はグリムを受容する日本人の意識がどのように変容してきたかという日本人自身の問題に行き着くように思われる。それは変化の究明というより、アイデンティティの模索といえよう。いま私たちはグリムを通して、一世紀余の西洋受容と日本児童文学構築のありようを再検討する最良の時代に遭遇したのかもしれない。

(はじめに抄)

【参考】  
グリム童話4話の明治期に翻訳された作品リスト。☆は『翻訳集成』に収録されて、掲載の形で読むことができる。

\*本集成の全収録作品はホームページに掲載しています。



金城の公女 菅了法訳 (KHM6) [『神仙叢話』 明治20年4月] 162

- ☆明24・8 シンドレラ嬢奇談（即ち泰西皿々奇談）（洪江保訳『西洋妖怪奇談』）
- ☆明32・8 踊靴（白雨楼主人訳『少年世界』）
- 明42・3 真珠姫（和田垣謙三・星野久成訳『家庭お伽噺』）
- 【ブレイメンの音楽隊】（KHM27）
- ☆明26・1 街道音楽（西翁訳『小国民』）
- ☆明35・1 ブレイメンの音楽隊（ともる訳『少年世界』）
- ☆明36・3 ブレイメンの音楽隊（三槐生訳『心の花』）
- ☆明38・11 ブレイメンの町音楽隊（山君訳『心の花』）
- ☆明41・10 市街音楽隊（木村小舟訳『教育お伽噺』）
- 明42・3 芸は身を助く（和田垣謙三・星野久成訳『家庭お伽噺』）
- 明42・12 獣類の音楽家（百島冷泉訳『グリムお伽噺』）
- 明43・9 旅楽師（近藤敏三郎訳『グリムお伽噺』）
- 【白雪姫】（KHM53）
- ☆明29・4 白雪姫（巖谷小波訳『少年世界』）
- ☆明37・3 雪姫（教育資料研究会訳『話の泉』）
- 明39・3 小雪姫（橋本青雨訳『独逸童話集』）
- ☆明39・5 雪姫（山君訳『心の花』）
- ☆明41・10 雪姫物語（木村小舟訳『教育お伽噺』）
- 明41・12 雪姫（寺谷大波訳『世界お伽噺第9』）
- 明41・12 雪姫（水野繁太郎・権田保之助訳注『独逸文学叢書』）
- ☆明44・2 白雪姫（くすを生訳『新女界』）

# 日本におけるグリム童話翻訳書誌

(翻訳研究・書誌シリーズ1)

川戸道昭・野口芳子・榎原貴教 編著

A5判・上製・254頁 4-931522-07-6 定価 3,850円 (本体 3,500円+税)

[ナダ出版センター 2000.7刊]

**\*残部僅少**

■一つの童話が他の社会に伝播されるとき様々な変移をもたらすが、グリムのメルヒェンはその典型である。

## [研究編]

川戸「グリム童話の発見 日本における近代児童文学の出発点」

野口「改変された日本の『白雪姫』：明治から現代まで」

中山淳子「『狼と七匹の子山羊』の謎」

虎頭恵美子「日本におけるグリム翻訳書誌 明治期のグリム童話の本邦初訳について」

## [年表編]

グリム童話翻訳年表 (明治編、大正以降現代まで)

グリム童話 KHM 分類目録



明治19年 (一九八六)	4月 羊飼いの童 (原文 ROMAI ZASSHI (10回) [152] 牧童) カタヤマ キンイチロウ訳
明治20年 (一八八七)	4月★ 菅了法訳 神仙叢話
菅了法訳	「仙禽を逐ふて公子金城に入る (57) 黄金の鳥 / 活殺自在の術 (81) のんきぼうず」 / 履師怪を見る (39) 1 まほうをつかう一寸法師 一番目の話 / 金城の公女 (6) 忠臣ヨハネス / 十二の公女仙家に踏舞す (133) おどりぬいてほろほろになる靴 / 公女メリーの節操 (9) 十二人兄弟 / 三公子仙窟を探ぐる (62) 蜂の女王 / 仙子の名附祝ひ (39) 2 まほうをつかう一寸法師 二番目の話 / 三線の金髪 (29) 金の髪が三本はえてる鬼 / 王子獅子の形ちをうく (88) なきながらびんびん跳ぶ (ひばり) / シンデレラの奇縁 (21) 灰かぶり) 収録」 本書の書誌を記しておく。 18cm 目次 2 + 145 + 奥付 2 + 広告 14p 挿絵 2葉。東京 集成社書店

- 「狼と七匹の子山羊」(KHM5)
- ☆明 20・9 八ツ山羊 (呉文聡訳 『西洋昔噺』)
- 明 22・9 狼と七匹の羊 (西翁訳 小国民)
- 明 22・10 おほかみ (上田万年訳 『家庭叢話』)
- ☆明 28・8 子猫の仇 (巖谷小波訳 少年世界)
- ☆明 37・3 伶俐な山羊 (教育資料研究会訳 『話の泉』)
- ☆明 37・10 羊の天下 (巖谷小波訳 少年世界)
- ☆明 41・10 狼と七匹の子山羊 (木村小舟訳 『教育お伽噺』)
- 明 42・12 狼の計略 (百島冷泉訳 『グリムお伽噺』)
- 明 43・9 狼と七匹の山羊仔 (近藤敏三郎訳 『グリムお伽噺』)
- 明 44・2 狼と七匹の犢牛 (日野藤村編 『ドイツお伽噺』)
- 「灰かぶり」(シンデレラ) (KHM21)
- ☆明 20・4 シンデレラの奇縁 (菅了法訳 『神仙叢話』)

# 明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成 全3巻

川戸道昭・新井清司・榊原貴教 編

B5判・上製・総960頁 全3巻揃 4-901061-06-2 定価55,000円(本体50,000円+税)

[企画：ナダ出版センター、発行：アイアールディー企画 2001.1刊]

■「探偵小説」が登場する19世紀イギリスを、明治期の日本が「翻訳」を通して捉えた姿とは？ 文学のみならず社会・文化研究に魅力あるテーマを与えるユニークな集成



●本書は明治期に発表されたコナン・ドイル著『緋色の研究』と『シャーロック・ホームズの冒険』の翻訳集成である。

『シャーロック・ホームズ』探偵物語の翻訳は、全訳が本格的に始まるのは大正期以降であるが、明治期にも『緋色の研究』『四つの署名』は幾種類か訳され、また『シャーロック・ホームズの冒険』には全訳もあり、シャーロック・ホームズには興味津々の時代である。日本人がどのような訳でシャーロック・ホームズを受容してきたのかを知ること

は、探偵小説史の上ばかりか、探偵小説が登場する十九世紀のイギリス市民社会を日本人が明治期にどのように受容していったのかを知る上でも重要なことである。近代以前、『文学』という言葉は、人間の学と同義語であったが、近代に至り『文学』は芸術の一領域へと転身した。この時、探偵小説は文学という領域の中に地歩を確保した。それは活字による教育が普及した結果、知性の余剰を生み出し、文学の中にも遊戯性が取り込まれるようになったためと思われる。明治の後半から現代に至るまで、この環境は引き継がれている。

このような歴史を振り返ることは、現代文化を考察する上で必要なことであるが、明治期の翻訳は稀難書であったり、埋没し再評価が遅れていることもあって、入手困難で読むことができない。こうした現状に鑑みて、長年シャーロック・ホームズ書誌を手懸けてきた編者が協力して復刻版と書誌年表を企画し、明治期のシャーロック・ホームズの受容史を一望できるように編集した。本集成によって、今日なお層の厚いファンを持つ日本の探偵小説・推理小説の原点とその歴史を研究していただければ幸いである。(刊行に際して抄)

## 【収録作品抄】

### 第1巻 緋色の研究

- ☆明 32・4 血染の壁 (無名氏訳 毎日新聞)
- ◎明 33・9 倫敦通信 新陰陽博士 (原抱一庵訳 文芸倶楽部)
- 明 34・11 モルモン奇譚 (森礎峰訳 時事新報)
- ☆明 39・11 神通力 (風葉山人訳 読売新聞)

### 第2巻 シャーロック・ホームズの冒険 1

#### 「赤毛組合」

- ◎明 32・8 不思議の探偵 禿頭俱樂部 (水田南陽訳 中央新聞)
- ☆明 40・4 『銀行盗賊』 (佐川春水訳 建文社)
- ☆明 44・11 紅髪組合 (郡山経堂訳 『続英国探偵奇聞録』)
- 明 45・6 探偵奇聞 地下の秘密 (森嶺山訳 日本青年)

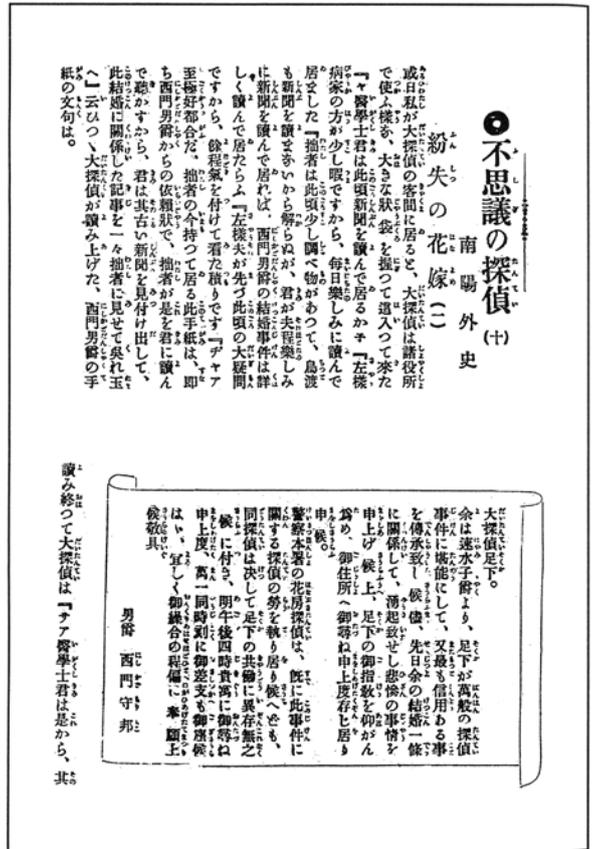
### 第3巻 シャーロック・ホームズの冒険 2

#### 「唇の曲がった男」

- ◎明 27・1 乞食道楽 (無署名 日本人)
- ☆明 32・9 乞食の大王 (水田南陽訳 中央新聞)
- ◎明 36・10 偽紳士 (小羊生訳 慶応義塾学报)
- ☆明 40・12 乞食紳士 (本間久四郎訳 『神通力』)
- 明 42・5 紳士か乞食か (手塚雄訳 東西社)

【参考】(翻訳年表より)

☆は本集成に収録の作品、◎は『明治期翻訳文学全集(新聞雑誌編) 8・ドイル集』に収録。



183 紛失の花嫁 水田南陽訳 [中央新聞 明治32年9月21日]



紛失の花嫁 水田南陽訳 [中央新聞 明治32年9月21日] 184

\*本集成の全収録作品はホームページに掲載しています。

# 日本における シャーロック・ホームズ

(翻訳研究・書誌シリーズ2)

川戸道昭・新井清司・榊原貴教 編著

A5判・上製・280頁・口絵8頁 4-931522-09-2 定価 6,050円 (本体 5,500円+税)

[ナダ出版センター 2001.9刊]

## [研究編]

川戸「日本におけるシャーロック・ホームズ その『古典』化までの道すじ」  
 日暮雅通「日本だけが特殊なのか? ホームズ物語の翻訳の変遷とその特殊性」  
 植田弘隆「ホームズ児童書史散歩」  
 新井「日本における Doyle、ホームズ移入史余談」

## [年表・索引編]

シャーロック・ホームズ翻訳文学年表 (川戸・新井・中原英一・榊原編)  
 シャーロック・ホームズ作品別索引

●翻訳文学の中で、探偵小説研究は奇妙な場所に位置している。文学形式をとりながら、「文学」研究の主流からはずされ、傍流の研究として命脈を保って生き延びてきた。それは物語が最初から一つの結論を持ち、その結論に向かう条件として物語が進展しているために「小説」研究の対象として第二義的なフィールドとみられてきたからであろう。しかし、現代日本でミステリーが「文学」作品の中で多くの読者を獲得しているのはなぜだろうか。

大衆化に成功した文学作品であると言ってしまうこともできるが、共同体の構成員の多数派である大衆がミステリーに魅せられてしまったのはいかなる社会条件によるのか。ハイデッガーが「退屈」について長大な思索をしたように、探偵小説の「おもしろさ」と近代の社会とはいかなる係わりを持ち合っているのか。この疑問は、現代社会を考察するうえで回避できない問題として、文学研究者の前に提示されていることは間違いない。シャーロック・ホームズものの詳細な翻訳年表の作成は、この問題を討議していくための土俵づくりをしていきたいと考えた。また、その基調報告として、百ページに及ぶ四本の研究による最新論考を巻頭に収めた。

個別的なテーマとしては、ホームズやワトスンが小室泰六と和田進一、堀見猪之助と和田真吉、本田宗六と和津などと名を変えて紹介された明治期の翻訳とは何であったのか、現代にあっても置き換え不能な語彙が残る文化の翻訳とは何なのか、翻訳史研究はまだ明快な解答を得ていない。こうした諸問題を解決し、文化の翻訳とは何かを考える一冊として利用いただければ幸いである。  
 (刊行に際して抄)



## シャーロック・ホームズ翻訳文学年表 1 (明治期)

- 明治27年 (二八九四)
- 1月 乞食道楽 記者不記 日本人 (5月2月) [唇の曲がった男 The Man with the Twisted Lip]  
 (セントセオリア大学にて地質学に名を得しエリアスホイットニイの兄弟にてアイサホイットニイといひしは甚しく阿片烟に耽り家をも身をも忘るゝに到れり かゝる慣習を生せしもとはわけもなき戯よりのことにてかのクインシーの人種談を讀みてタバコをラウダニウムに取換て試みに初り今は其嗜好は益つり實際これをやむることはかたくこれを逐るはやすしといふへき場合に陥りその朋友親族の畏懼と悲哀との中にありてこの毒物の奴隷となり果たり)
- 明治30年 (二八九七)
- 3月 銀の手斧 湖南生訳 読売新聞 (23日~4月2日) [The Silver Handax]  
 (千八百六十一年十二月の三日の夜であった 匈牙利国某大学の比較解剖学の教授であつて、また大学付属の博物館の監督を兼ねたる博士オットー、フォン、ホップスタイン氏が、学校の門から殆んど石を投げたら届く位の處で、残酷にも殺害されて居た。)
- 8月 心中船 尾崎紅葉訳 新小説 (31年12月)
- 明治31年 (二八九八)
- 1月 荒磯 山縣蠡湖 (五十雄) 訳 反省雑誌 (2月) [The Man from Archange]

# 黒岩涙香の研究と書誌 黒岩涙香著訳書総覧

(翻訳研究・書誌シリーズ別巻1)

伊藤秀雄・榊原貴教 編著

A5判・上製・244頁・口絵10頁 4-7727-0354-3 定価6,050円(本体5,500円+税)

[ナダ出版センター2001.6刊]

## [研究編]

高松敏男「若き日の涙香、最初の活躍『大阪日報』への投稿と『政治月報』の編纂」

川戸道昭「ミステリー作家黒岩涙香の誕生」

小森健太郎「黒岩涙香の訳した原典の探索」

## [書誌・解題編]

伊藤「黒岩涙香著訳書総覧(日本たいむす時代、絵入自由新聞時代、都新聞時代、萬朝報時代)」

伊藤・榊原「黒岩涙香刊行図書書誌」、伊藤「黒岩涙香年譜」/索引

■『萬朝報』を舞台にして翻案された数々の涙香の作品はノベルだったのか、ストーリーだったのか。

●近代日本における探偵小説の始祖といわれるクリストマイエルの『楊牙児ノ奇獄』やフィリップスの『情供証拠誤判録』は裁判の誤判を解き明かしていく記録であった。この記録手法に、明治期の戯作者が生み出した事件報道の続き物の面白さを援用して、探偵談を日本に普及させてきたチャンピオンは黒岩涙香であった。涙香は、徳富蘇峰の「国民之友」誌上で行なった探偵小説批判に応じて、自らの「探偵談」は「文学の趣味の上より観察す可き」ものではなく、「仮令ひ作者が小説を作る如く己れの空想より絞り出したりとするも是れ一種の「ストーリー」なり、「ノベル」と名付け難からん」と「萬朝報」で反論する。この姿勢は初期作品に顕著に現われているが、転換期の戯作者たちが時の権力や富力の不正を暴くと同じ位相で、社会的な誤謬を糾す手法によって物語を創造した。自ら生きている時代を物語化して、世界理解を可能とする広義の文学が涙香のストーリーであった。この伝統は戦後の日本においても社会派の小説作品に継承されていったが、今日の推理小説は虚構の中の合理性のみを追求し、その衝撃度によって読者の興味を引きつける知的遊戯の文学に変質してしまった観がある。涙香の作品が今日なお多くのファンを持ち続けているのは、彼が出発点でもち得た社会性と合理性を探偵小説の中に総合化していたからであろう。

この経緯を再検討し、探偵小説とは何であったのか、現代のミステリーがいかなる位置に立たされているのかを解説する必要があるように思う。伊藤秀雄氏の黒岩涙香の詳細な書誌研究はこの意味で現代的要望にこたえるものであると考え、かつすぐれた涙香研究家三氏の協賛を得て、ここに『黒岩涙香の研究と書誌』を刊行する次第である。

(刊行に際して抄)

## 【参考】(17頁)

『明治期翻訳文学全集《翻訳家編》7・黒岩涙香集』



原書 "Bouché case" (他言無用) 英訳 "Scandal".

此曲物 仏ボアゴベ著 涙香小史訳 (四月) 東京 岩本五一編輯 井上勝五郎発行 (20銭)

18 cm 12行 序(香夢樓の隠士・口絵3丁+260p) (78,265p) は袋綴) + 奥付1丁

(茲に説出すは塔上の犯罪として一時仏国巴里府の人心を慄動せしめたる惨話の顛末なり)

明治24年10月に「塔上の犯罪」と改題 井上勝五郎編輯・発行(黨志堂発売) 19 cm 12行 序(在天生) 2+挿絵18

+ 246+奥付広告2p またその再版は28年10月刊行 22 cm 12行 序(在天生) 2+挿絵22+260+奥付1p

原題: "Langes de Roubaix" (鐘樓の天使) 英訳 "The angel of the bell"

涙香小史訳 (七月) 東京 岩本五一編輯・発行(扶桑堂版)

19 cm 12行 序(二三散史)・口絵8+275+奥付1p 挿画2葉

(鐘樓の指環) 物の祟りほど恐ろしきは莫し 詰らぬ品物も祟るときは人の命に罹るとかや 余が妻の環たる指環の如きは実に妻の命に祟りし者なり)

(恐ろしき五分間) 僅に五分間と云へば最短き事なれど余ハ其恐ろしさを生涯忘れ得ず

(婚姻) 英国の西部ウエルズと云ふ所にリンズイナントと呼ぶ湖水あり)

(紳士三人) 倫敦にリリヒ嬢と云ふ美人あり 容貌の美しきが上に年々五千元の所得あり)

(冤怒) 時は八月の中旬午後三四時と云へば暑き盛りなるべし)

(生命保険) 母と云ひ子と云ふ世に是ほどの親しき者ハナシ)

(探偵) 米國オリアン州の警察署内探偵詰所の上坐の拍へ余念もなく書類を取調べ居る老官吏は言でも著き探偵長ならん)

(広告) 余が曾て某新聞の記者を勤めし頃盛に芝居改良と云へる事流行し奇と接ると其議論を初る程なりしかば余も妻も其流行熱に浮され自ら俳優と為り改良歌舞伎の舞台に上る覚悟を定め余は妻と共に俳優の稱古を初めたり)

# 夏目漱石の研究と書誌

(翻訳研究・書誌シリーズ別巻2)

小田切靖明・榊原鳴海堂 著

A5判・上製・318頁・口絵8頁 4-931522-10-6 定価 6,600円  
[ナダ出版センター 2002.7刊] (本体 6,000円+税)

## [内容]

漱石研究の周辺(榊原)  
『漱石本』の研究と書誌(小田切)  
『漱石研究文献』詳細書誌  
漱石擬態本詳細書誌(『吾輩は猫である』パロディー 100点)  
研究文献著者索引

●本多顕彰が昭和21年に「漱石山脈」(『孤独の文学者』所収)の中で、「医師、法律家、科学者、教師の中に、かつて中学、高等学校、大学において漱石の教へを受けたことを非常に誇りをもつて語る人々と、それを羨望をもつて聞く人々とに、今日も屢々出会う。かういふことは、今後なほ幾年も続くことと考へられる」と言ったことがある。漱石研究の第1期はここでいう「教へを受けたことを非常に誇りをもつて語る人々」の世代によつて担われてきた。第2期は「それを羨望をもつて聞く人々」の世代によつて担われた。ここまでが直接間接の違いはあれ、漱石の体温を感じていた人々であつたらう。その後(第3期)は活字のみを通して、漱石に文学的な共感を感じた世代である。(…)

文学研究を世代によつて分類することはむづかしいが、人はそれぞれ生きた時代の制約を受けており、それゆえの、理解の許容範囲というものがある。(…)時代の制約とは、封建制とかファシズムといった大上段を構えるようなものばかりでなく、もっと日常的な自覚できないものの方が学問研究に多くの影響を及ぼしてきた。こうした時代の制約を脱皮できる知的エネルギーが新しい研究の時代を招来してきたのであるが、活字のみによつて漱石を享受した第3期の世代から、荒正人、江藤淳といった研究者が登場したのも、漱石の体温を感じ得なくなったという背景がなくもない。それは一つの制約からの脱皮であつた。では、今日を第4期と仮定するならば、いかなる時代の制約から脱皮する必要があるのだろうか。漱石論に関心を抱くものとしては、一つの課題でもある。

あえて暴言を吐くとすれば、国民作家像としての漱石からの脱皮かもしれない。時代は、漱石の作品が義務教育の教科書から姿を消しつつあるという。漱石の時代がもう手を挙げて受容した「近代」がいま黄昏にあるとき、漱石とともに「近代」を再考するには、「近代」に閉じ込められた国民作家像の相対化が必要かもしれない。

編者二人は、研究者ではなく、蒐集家と古書肆という立場からして、関心は漱石とともに生きていた時代に関心が向いている。このため、本書では漱石と同時代を生きた人々の文献に重心を置き、前述した第3期までに力を注いできた。漱石没後50年以降については、いかなる方向に漱石研究者の関心が移ってきているのか把握できていないために、疎になっている。(…)最近の研究文献図書については、他の丹念な文献目録や研究者が作成している参考文献を参照していただければ幸いである。

(あとがき抄)



明治44年(一九一) 漱石44歳 文学博士号を辞退  
影と声 阿部次郎・小宮豊隆・安倍能成・森田草平著(明治44年3月) 春陽堂 19cm 490p [80銭]  
『四篇』を読む(安倍能成) 『三四郎』を読む(小宮豊隆) (初出) 『東京朝日新聞』明治43年7月15日  
『二それから』を読む(阿部次郎) (初出) 『新小説』明治42年7月〜8月) \* (本書は神奈川近代文学館に所蔵、調査当日、本が漱石展の会場で展示中のため内容確認できず) 22cm 献辞1+解題4+目次4+52+奥付1+広告7p (第2刷) 9月) 広文堂(大倉広三郎) 22cm 献辞1+解題4+目次4+52+奥付1+広告7p (第3刷) 11月) (1円80銭)  
夏目漱石氏の『文芸の哲学的基礎』を評す 257〜423p (初出) 『明星』明治41年2月〜3月)  
文話歌話(金子薫園(雄太郎)著(明治44年11月) 大同館(坂本真三) 19cm 序2+目次4+327+奥付1+広告1+薫園著作目録2p [50銭]  
『倫敦塔』の一節 51〜60p 『倫敦塔』の作品批評。  
明治45年・大正1年(一九一) 漱石45歳 『彼岸過迄』を『朝日新聞』に連載  
花袋文話 田山花袋著(明治45年1月) 博文館(大橋新太郎) 19cm 序文1+目次6+438+奥付1+広告11p [80銭]  
『漱石のそれから』のほか「鵬外と二葉亭」180〜182p 「漱石と虚子」208〜211p  
「漱石の文章は理窟っぽい、厭に煩瑣なところがある。才に任せて軽く筆を走らせて行くやうな気分である。作をするといふよりも文章を作るといふ調子もある。従つて書いてあること、文章とがしつくり合はないやうなところがある。それから此作者の文章の煩瑣な感じを与へる理由の一つは、作者が常に作中人物の心理を説明する処から起つて来る。作中人物の個性の持つて居る心理ではなくて、作者の揣摩し推察した心理が常に行を逐ひ頁を逐つて出て来る。」(漱石のそれから)  
最近の小説家(現代文芸叢書第8巻) 生田長江(弘治)著(明治45年2月) 春陽堂(和田静子) 16cm 緒言6+222+奥付1+広告16p [25銭]  
「夏目漱石氏と森嶋外氏と」3〜28p (初出) 『新潮』明治44年1月) 他に田山花袋、島崎藤村、泉鏡花、徳田秋声、真山青果を取り上げている。  
「夏目漱石氏にはかなり久しい以前から色々御面倒を見て戴いた。森嶋外氏に直接の御指導を仰ぐやうになつたのは、比較的新しいことである。けれども、氏より受けたる間接の影響は、漱石氏より受けたるそれよりも、より長く、より強いものであるかも知れない。」  
「先づ私の興味を惹くのは、鵬外氏と漱石氏との対照である。人としての、芸術家としての両氏の対照である。……机に向ふ時の漱石氏は、折々前垂を掛けて居られる。鵬外氏は家にあるも袴を取られたこ

# 日本における サムエル・ジョンソンおよびジェイムズ・ボズウェル 文献目録 (1871-2005)

藤井哲 編著

B5判・上製・310頁 4-931522-11-4 定価 7,700円 (本体 7,000円+税)  
[ナダ出版センター 2006.6刊]

- 18世紀の文人 S. Johnson と日記作家 J. Boswell が、1871・明治4年から135年間に日本で受容・研究された文献情報を年表形式にまとめた書誌年表。

(目次)

はじめに i  
凡例 vii  
西暦・元号対照表 xii  
参照資料目録(抄) xiii-xviii

日本におけるサムエル・ジョンソンおよびジェイムズ・ボズウェル文献目録 (1871-2005)

明治時代 3  
大正時代 27  
昭和時代 32  
平成時代 176

人名索引 275  
主題別索引 304-310



## Shakespeare の次にくる大物作家 Dr. Johnson

●本書は、18世紀 England における個性的文人 Samuel Johnson (1709-1784) と、彼の奇人ぶりを伝記のなかに記録して注目されてきた Scotland 出身の日記作家 James Boswell (1740-1795) とが、日本において 1871 年 (明治 4) から 2005 年 (平成 17) 12 月に至る間に受容・研究されてきた足跡を辿るための案内役であり、関連する文献の書誌情報を並べた年表である。

英国人に「Shakespeare の次にくる大物作家は誰か」と問えば、おそらく「Dr. Johnson」との答えが返ってこよう。なにしろ彼の *A Dictionary of the English Language* (1775) はながらく英語の語法に拠り処を与えてきていたし、Boswell の *The Life of Johnson* (1791) も古典中の古典として愛読されてきた。また英文学史では 18 世紀中葉は「Johnson の時代」と呼び慣わされていたくらいであるから、英国での Johnson 人気には伝統がある。もちろん日本の文壇や英語教育界も早くから英文学の受容には熱心であったから、Johnson に無関心でいられたはずがない。その結果として Johnson 研究は明治期いらいの成果を蓄積してきたことになるのであるが、とりわけここ 10 数年における盛況ぶりには目を見張らされるものがある。

本書を Johnson 研究に限定した書誌とはせず、Boswell 関連の文献を含めたことについて付言しておきたい。そもそも英国では 20 世紀初めまで、Johnson の高い人気は彼の作品が面白いからではなく、Boswell の *The Life Johnson* が面白いからであるとの見方が主流であった。日本においても、例えば Lafcadio Hearn などは Boswell あってこそその Johnson という立場で講義をしていたし、同様の Johnson 観を我が国のその後の研究者たちに浸透・定着させていった。このような次第で Johnson と Boswell とが不可分に絡み合いながら日本での Johnson 研究が、現在ではいざ知らず、従来は行われてきたので、Johnson 受容の歴史を振り返るに際しては Boswell 関連の業績も無視できないことになるのである。(はじめにより)

のみ、其種類は雑多にして…肩のなき代りにこれぞといふべき傑作もなく、やゝ素人文士たるの觀あり」(p. 365)とし、*Lives*を取り上げて「此の一書によりて吾人は初めて評論家としてのジョンソンの手腕を見る。但し此書の價値は其開發的なる點に存じ、事實の正確と、批判の正鵠とに於ては甚だ誇るに足らず」(p. 366)とも評価する。また *Life* については、「蓋しボズウェルは時の小説家に倣ひて其傳記に寫實の筆を應用したる也。…ボズウェルはげに傳記作者としての天才也。されどジョンソンは傳記の題目として最も好適の特徴を具へたり」(p. 368)としている。他に SJ/JB 用「研究書目」(pp. 376-377)や Fanny Burney への言及も見られる(pp. 541-542)。【105】【41】【52】【復刻】:『明治期刊行物集成』(000201)。『西洋文学移入資料』(R27-1)。【参考】: [99291] p. 184。

[90751] 夏目漱石『文學論』大倉書店 1907年5月 (672頁)。1903年9月から1905年6月まで東京帝国大学文学部で講じた「英文學概説」に加筆・訂正を加えて出版したもの。本書第五編の第六章で「原則の應用(四)」(pp. 614-650、1995年版全集では pp. 492-519)が、「浪漫典型二派の争の…小説中にはあらはるに至つては、特殊なる此方面の研究者たる吾人に取つて更に一層の興味あるものなり」として、Elizabeth Gaskell の *Cranford* (1851-1853) 第1章と Thackeray の *The Newcomes* (1853-1855) 第21章とから「個人の會話として小説中に織り込める新舊兩趣味の衝突」の場면을引用しているが(pp. 616-624)、どちらの引用にも SJ が「典型」派・旧趣味の象徴になっている。【105】  
本書は国会図書館の「近代デジタルライブラリー」で閲覧可能。【復刻】:『名著復刻漱石文学館: 文學論』ほるぷ 1975年11月。『明治期刊行物集成』(000808)。【再刊】:『漱石全集』岩波書店 1928年11月(第11巻)、1949年9月(第16巻)、1957年2月(第18巻)、1966年8月(第9巻、pp. 647-650、引用には野上豊一郎訳および角野喜六訳)、1995年8月(第14巻、pp. 685-690、引用には出淵博明訳)ほか諸版あり。【参考】:ギヤスケル/小池滋訳『女だけの町』岩波文庫 1986年8月 pp. 22-26。小池滋(他訳)『ギヤスケル全集 1: クランフォード・短篇』大阪: 大阪教育図書 2000年1月 pp. 12-14。

[90791] *The English Essayists: Being Typical Selection from the Works of British and American Essayists from Bacon to Huxley*. 彩雲閣 1907年9月 pp. 37-44. *Rambler* 第137号を“Literary Courage”というタイトルで原文のまま収録。本書について『英語青年』(第18巻7號、1908年1月)は「高等學校程度に講讀教科書たるに適すべし」(p. 173)と評している。【16】【復刻】:『明治期刊行物集成』(008787)。

□ 1908 (明治41) 年 □

[90821] *The Globe Readers Arranged in Grades by Okakura-Yoshisaburo* [岡倉由三郎]: *Book Five* (文部省検定済中學校師範學校外國語教科用)。大日本圖書 1908年2月。本書は\*1907年11月発行本の訂正版。SJ が Uttoxeter に行んで50年前の親不孝を悔悛した逸話を“Lesson XXI: Dr. Johnson. -1”および“Lesson XXII: Dr. Johnson. -2”として収める(pp. 81-90)。【9】【復刻】: 高梨健吉、出来成(監修)『英語教科書名著選集』第2期第14巻 大空社 1993年1月。【参考】: 南塚隆夫「伝記文学連講(10): Nathaniel Hawthorne, *Biographical Stories*」『英語教育』第29巻11号 大修館書店 1981年1月 pp. 46-48。

[90822] 片山寛『Fanny Burney の話』『英文新誌』(*The Student*) 第5巻9、10號 英文新誌社 1908年2月 pp. 25(233)、24-25(258-259)。Francis Burney (1752-1840) の生涯を略述するなかで、*Cecilia* (1782) に触れて「Fanny の筆には Dr. Johnson の學者振つた文體が何處となく傳染して、本来の淡白、無邪氣な趣を

# ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究

柳富子 編著

A5判・上製・652頁 4-931522-08-4 定価 7,700円 (本体 7,000円+税)

[ナダ出版センター 2001.2刊]

## ■早稲田大学比較文学研究室の半世紀に及ぶロシア文化研究の成果

●本書は36名の執筆者の論文(一部翻訳)から成っており、ロシアの18世紀から20世紀までの文学、美術、音楽、バレエ、あるいは亡命文学者の作品や、移動、交流等々をヨーロッパ、アメリカ、日本を関連させつつ各自の研究に即して論じているものであり、全体として、通時的のみならず、横断的にロシアの文学・文化現象を読み解こうとする狙いをもつ。いわば、生きた動態の形で、脱国境的に事象を掴んで世に問おうとするものといつてよい。

私がこうした論文集の刊行を企てたのは、大学の紀要に発表された論稿が、ごく少数の研究者の眼に触れるのみで埋もれてしまうのを惜しむ余りのことであつた。より具体的にいえば、この紀要とは早稲田大学比較文学研究室の『比較文学年誌』を念頭に置いている。室の創設は1962年(昭和37年)であり、紀要の創刊は3年遅れの1965年であつた。ちなみに当時の状況を振りかえってみると1948年に日本比較文学会が創設され、次いで1953年に東京大学大学院に比較文学文化の講座が開設され、早稲田大学はこれよりやや遅れはしたものの、時代を先取りしての構想であつた。(柳・本書の刊行について抄)



(右) 第2集(次頁)

●(第1集)・第2集で取り上げられた人名(抄)…次頁

## [目次]

序(柳富子)

### 第1部 ロシア文化のなかのヨーロッパ

1. ロシアとヨーロッパ:ロシアの「他者」としての西欧(川端香男里)
2. 過渡期のトレチアコフスキイ:『アルゲニタ』序文から『チレマヒーダ』序文へ(佐々木精治)
3. ロモノソフのモザイク画(藤沼貴)
4. チュルコフの『からかい屋あるいはスラヴのスカースカ』におけるダンテの『神曲』受容について(杉野由紀)
5. ロマン主義バレエの萌芽を導いた振付家デイドロ(村山久美子)
6. 『スペードの女王』と『マクベス』:構造とイメージからみた対比的考察(森田敦子)
7. ロシアにおけるシェリング哲学:その受容と展開について(坂庭淳史)
8. 信仰の渴望と自我の凌駕:ツルゲーネフの『ステーノ』とバイロンの『マンフレッド』をめぐる(佐藤清一郎)
9. ドストエフスキーの文学的出発:『ウジェニー・グランデ』の翻訳について(杉里直人)
10. シラーとドストエフスキー:問題設定のために(井桁貞義)
11. ドストエフスキーの作品における「ドン・キホーテ」(桜井厚二)
12. コロレンコとアメリカ(高野雅之)
13. M・ヴルーベリと世紀末芸術:〈西欧〉と〈ロシア〉における女性性の表象をめぐる(上野理恵)
14. チェーホフとモーパッサン:両作家の類似をめぐる(柳富子)
15. スクリャービンの『プロメテウス』とオカルティズム(長井淳)
16. ストラヴィンスキーのジャポニズムの一側面:『日本の叙情歌からの三つの詩』の拍節法について(伊東一郎)

17. ウェルズからザミャーチンへ:「ネオリアリズム」の誕生(草野慶子)
18. ベルリンのロシア文学 1921-1923:「ひとつのロシア文学」をもとめて(貝澤哉)
19. ミハイル・ブルガーコフのモリエール(菊池嘉人)
20. 『オーレリアン』あるいはナボコフ(鈴木正美)
21. イヴァン・ツルゲーネフとエドモン・ド・ゴンクール(小山ブリジット)

### 第2部 日本とロシア:交流のなかで

22. 1869、1870年のペテルブルグ農・林業大学の思い出(アンドレイ・コレニコ著、沢田和彦訳)
23. 島崎藤村とツルゲーネフ:藤村が聞いた音、見た自然(榎内裕子)
24. 新宿中村屋女主人 相馬黒光:ロシアとの出会い(南平かおり)
25. ローゼンベルク研究に向けて(小林潔)
26. 『どん底』の太陽:テキストロジーの立場から(中本信幸)
27. 明治期のアンドレーエフ受容史の一側面:『早稲田文学』『趣味』を中心に(塚原孝)
28. 神経衰弱の文学:谷崎潤一郎とロシア文学(源貴志)
29. 日本におけるトルストイの原像(八島雅彦)
30. 宇野浩二・芥川龍之介とゴーゴリの『外套』:「ちっぽけな人間」をめぐる(秦野一宏)
31. 芥川龍之介におけるドストエフスキー:遺稿『闇中間答』を中心に(国松夏紀)
32. 日本の形式主義に与えたシクロフスキイの影響の一断面:横光利一と中河与一をめぐる(佐藤千登勢)
33. 小説『道標』の人々:1927/28年冬モスクワ(2)(笠間啓治)
34. 鳴海完造のロシア:訪ソ日記から(中村喜和)
35. 日本におけるバフチンの移入について(佐々木寛)
36. ロシア語訳『源氏物語』:立ち現れる〈声〉たち(田村充正)

早稲田大学比較文化研究室の歴史

# ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究 第2集

柳富子 編著

A5判・上製・758頁 4-931522-12-2 定価 8,800円 (本体 8,000円+税)

[ナダ出版センター 2006.10刊]

## ■ 46名によるロシアおよび比較文化研究の成果 48編

[目次] 序 (柳富子)

### 第1部 ロシア文化と外国：関係の諸相

1. 中世におけるスラヴ世界とヨーロッパ世界 (川端香男里)
2. ロシア産育習俗考 (栗原成郎)
3. スマローコフの『ハムレット』(1748年)：死から生への変容 (柳富子)
4. ロシアにおけるダンテ概観：『神曲』を中心に (佐々木寛)
5. ジュコーフスキーの翻訳バラード『杯』について (岸本福子)
6. 対話するオードとエレジー：プーシキンの「エレジー」(1830年)のジャンルをめぐって (鈴木健司)
7. プーシキン『ボリス・ゴドゥノフ』における民衆：シェイクスピア史劇との対比的考察 (森田敦子)
8. ゴーゴリー・ウクライナ・バロック：民衆文化 (伊東一郎)
9. キュステース『1839年のロシア』とその受容 (坂庭淳史)
10. カロリーナ・パヴロワの『ファンタスマゴリー』について (南平かおり)
11. スキアヴォーニに死す：ツルゲーネフの『その前夜』と「魔法の街」ヴェネツィアについて (相沢直樹)
12. ツルゲーネフと音楽：ロシアと西欧の狭間で (佐藤清一郎)
13. 散文詩をめぐって：ベルトラン、ボードレル、トゥルゲーネフ (粕谷典子)
14. 『マッチ売りの少女』とドストエフスキー (藤沼敦子)
15. 夢のオリエント：クズネツォフの《日本版画のある静物》をめぐって (上野理恵)
16. スクリャービンの《秘儀》のイデーとブラヴァツキー神智学 (長井淳)
17. アシヤーン・ゴレイゾーフスキーのアヴァンギャルド・バレエ『美しきヨセフ』(村山久美子)
18. ゴーリキーの見たエセーニン (佐藤純一)
19. イサドラ・ダンカンからバレエ・リュスへ：ロシア象徴主義の舞踊観に関する試論 (草野慶子)
20. アリスからアーニャへ：ルイス・キャロル『不思議の国のアリス』のナボコフ訳をめぐって (小西昌隆)
21. シギズムンド・クルジジャノフスキー『文字殺しクラブ』における『ハムレット』と演劇の問題 (上田洋子)
22. リルケの『マリーナ悲歌』についての一考察：リルケとツヴェターエヴァ、詩的世界観の探究 (吉見薫)
23. 鲁迅とロシア：授受関係の構図 (柳富子)
24. IO・トゥイニャーノフにおけるハイネ (八木君人)
25. ミハイル・ブルガーコフの『ドン・キホーテ』(菊池嘉人)
26. 交差点の住人と越境する詩人：ロシアにおけるカヴァフィスとプロツキー (長谷川麻子)
27. ソ連スパイ小説の神話 (桜井厚二)
28. 精神病院とカーニバル (神岡理恵子)
29. 現代ロシアの文化研究とポストモダニズムにおけるバフチン理解
30. 悲恋の構造 (藤沼貴)

### 第2部 日本とロシアの交流

31. ロシアから伝わった仏露辞書の話：鎖国時代の日露文化交流の一面 (中村喜和)
32. 黒野義文伝：東京外語露語科からペテルブルグ大学東洋学部へ (沢田和彦)
33. 日本学者ローゼンベルクとロシア式漢字排列法 (小林潔)
34. 知られざる日本学者マリアンナ・ツィンをめぐる日本人たち (笠間啓治)
35. 百姓思想家江渡狄嶺とトルストイ (阿部軍治)
36. 硯友社文学に見られるツルゲーネフ受容の様相：柳川春葉の場合 (榎内裕子)
37. 島村抱月の「二元の道」(木村敦夫)
38. 日本におけるアルツィバーシェフ：「サーニン」翻訳以前 (塚原孝)
39. アルツィバーシェフ紹介の一側面：鷗外と二葉亭をつなぐもの (源貴志)
40. 芥川龍之介とドストエフスキー：『カラマーゾフの兄弟』から「藪の中」へ (国松夏紀)
41. アンナ・アフマートワの日本初訳をめぐって：日露混血の異色作家大泉黒石の訳業 (中本信幸)
42. 日本における二つのソ連映画の受容をめぐって (佐藤千登勢)
43. 井上靖の「おろしや国酔夢譚」考 (小山ブリジット)
44. ドストエフスキーと黒澤明：『白痴』をめぐる語らい (井桁貞義)
45. 女性作家というヴィジョン：現代文学における1990年代、日本とロシアの場合 (高柳聡子)
46. 多和田葉子あるいはカモメラップ入りの干しぶどう：言葉と音のあわいで (鈴木正美)
47. ロシアの日本文学—古典篇 (田村充正)
48. ロシア人の日本論：その一側面 (柳富子)

日本における比較文学研究の史的展望 (柳富子)

● (第1集)・第2集で取り上げられた人名 (抄)

(第1部 ロシア他)

アルツィバーシェフ  
ヴルーベリ  
キュステース  
クズネツォフ  
クルジジャノフスキー  
ゴゴリー  
ゴーリキー  
ゴレイゾーフスキー  
コロレンコ  
ザミチャーチン  
ジュコーフスキー  
スクリャービン  
ストラヴィンスキー  
スマローコフ  
セミョーノフ  
イサドラ・ダンカン  
チュルコフ  
ツルゲーネフ  
デイドロ  
ドストエフスキー  
トルストイ  
トレヂアコフスキー  
ナボコフ  
バフチン  
バブロワ  
プーシキン  
ブルガーコフ  
ロモノーソフ  
\*  
アンデルセン  
ウェルズ  
キャロル  
シェイクスピア  
シェリング  
シラー  
セルバンテス  
ダンテ  
ハイネ  
モーパッサン  
モリエール  
リルケ  
鲁迅

(第2部 ロシアと日本)

秋田雨雀  
芥川龍之介  
アンドレーエフ  
井上靖  
宇野浩二  
江渡狄嶺  
大泉黒石  
小川洋子  
尾瀬敬止  
黒澤明  
黒野義文  
アンドレイ・コロレンコ  
シクロフスキー  
島崎藤村  
島村抱月  
瀬川雅夫  
相馬黒光  
大黒屋光太夫  
高田屋嘉兵衛  
武田泰淳  
谷崎潤一郎  
多和田葉子  
マリアンナ・ツィン  
鳴海完造  
昇曙夢  
二葉亭四迷  
宮本百合子  
森鷗外  
柳川春葉  
山口茂一  
湯浅芳子  
米川正夫  
ローゼンベルク

# 〈ナダ書房〉 マイクロフィルム版史料

文学・語学・翻訳文学／社会科学・軍隊／産業・民芸・教育

## 近代日本を鳥瞰する根本史料群

- 1 西洋文学移入史料集成
- 2 明治期翻訳文学書全集
- 3 近代日本黎明期文学書集成
- 4 明治初期文学雑誌集成
- 5 明治初期辞書集成 字類・字解・字引類
- 6 英学資料集成 国民英学会と中外英字新聞
- 7 明治期学術・言論雑誌集成
- 8 明治期社会科学翻訳書集成
- 9 明治前期地方自治制刊行物集成
- 10 月刊雑誌『自治機関』
- 11 近代日本軍隊関係雑誌集成〈陸軍の部〉
- 12 近代日本軍隊関係雑誌集成〈海軍の部〉
- 13 明治期産業翻訳書集成
- 14 明治期教育関係雑誌集成
- 15 児童教育史資料集成
- 16 『工藝』『月刊民藝』

---

『マイクロフィルム版史料 目録・解説』(全25点) ... p.15

【総販売元】

学術資料出版

大空社出版

電話 (03)5963-4451

eigy@ozorasha.co.jp

※大空社出版のホームページ  
「お問合せ」からも承ります。

\* ご予算・分割 / 部分ご購入等ご相談承ります。  
\* 納品には、ご注文頂いてから約1ヶ月かかります。

1 西洋文学移入史料集成 川戸道昭 編集・解説 53 リール 1,208,400円

- I 評伝編 全60点 19リール 433,200円
- II 文学史・人名辞典編 全23点 11リール 250,800円
- III 研究史・雑纂編1 全42点 12リール 273,600円
- IV 研究史・雑纂編2 全31点 11リール 250,800円



2 明治期翻訳文学書全集 212 リール 3,199,200円

- I イギリス文学編 榊原貴教 編集・島田謹二 解題 160点210冊 46リール 607,200円
- II 米・仏・独・露・北欧・南欧文学編 榊原貴教 編集・福田陸太郎・富田仁・小堀桂一郎・柳富子 解題 189点261冊 50リール 660,000円
- III 露・北欧・英米文学編 榊原貴教 編集・柳富子 解題 42リール 655,200円
- 別集 黒岩涙香集 榊原貴教 編集 23リール 358,800円
- IV-1 西欧詩の移入 川戸道昭・榊原貴教 編集 15リール 270,000円
- IV-2 続・英米文学編 川戸道昭・榊原貴教 編集 36リール 648,000円



3 近代日本黎明期文学書集成 榊原貴教 編集 119 リール 1,713,600円

- I 開化期編(戯作者10名) 166点483冊 35リール 504,000円
- II 自由民権期編(作家18名) 186点287冊 48リール 691,200円
- III 政治小説編(明治13～26年) 192点219冊 36リール 518,400円



4 明治初期文学雑誌集成 榊原貴教 編集・興津 要 解説 80 リール 1,344,000円

- I 戯作・歌舞伎編 39リール 655,200円  
風雅新誌(第1～101号:明治9～15年)4リール/魯文珍報(第1～34号:明治10～12年)1リール/歌舞伎新報(第1～1669号:明治12～30年)34リール
- II 漢学・戯作系編 41リール 688,800円  
〈漢学系〉 東京新誌(明治9～16年)13リール/春野新誌(明治14～15年)1リール/吾妻新誌(明治16～20年)7リール/妙々雑俎(明治11～12年)1リール/同楽叢談(明治12～14年)1リール  
〈戯作計〉 芳譚雑誌(明治11～17年)12リール/月とスッポンチ(明治11～13年)1リール/絵入人情雑誌(明治13～17年)4リール/寄笑新聞(明治8年)1リール



5 明治初期辞書集成 字類・字解・字引類 山田忠雄 責任監修・解説 1650冊 195リール 2,340,000円

- I 歴史書より編纂された非辞書体辞書 227点 50リール 600,000円
- II 地理書より編纂された非辞書体辞書 331点 46リール 552,000円
- III 中国古典・修身書より編纂された非辞書体辞書 310点 50リール 600,000円
- IV 読本・自然科学書より編纂された非辞書体辞書 300点 49リール 588,000円



6 英学資料集成 国民英学会と中外英字新聞 川戸道昭 編集・解説 27リール 468,000円

磯辺弥一郎の国民英学会機関誌・国民英学会英文集・国民英学新誌・中外英字新聞・中外英語の全号、講義録・教授書



7 明治期学術・言論雑誌集成 山室信一 編集・解説 88リール 1,308,000円

- I イギリス学系 8誌 31リール 487,200円  
共存雑誌(第1～67号:明治8年1月～13年5月) 2リール  
同人社文学雑誌(第1～92号:明治9年7月～16年5月) 2リール  
交詢雑誌(第1～571号:明治13年2月～34年4月) 17リール  
中立正党政談(第1～69号:明治13年8月～15年4月) 2リール  
北辰雑誌(第1～5号)・国友雑誌(第30～63号) 1リール  
明治協会雑誌(第1～127号:明治16年1月～19年9月) 3リール  
中央学術雑誌(第1～59号:明治18年3月～26年11月) 4リール
- II フランス学系 6誌 18リール 259,200円  
嚶鳴雑誌(第1～75号:明治12年10月～16年5月) 2リール  
東京輿論新誌(第1～419号:明治13年11月～22年10月) 8リール  
政理叢談(第1～55号:明治15年2月～16年12月) 3リール  
欧米政学協会雑誌(第1～13号:明治17年3月～12月) 1リール  
欧米政典集誌(第1～50号:明治19年8月～21年4月) 3リール  
仙台義会雑誌(第1～28号:明治17年10月～20年3月) 1リール



(表示価格は税別)

(表示価格は税別)

※詳しい内容解説〈PDF〉をお送りします。  
ご希望カタログ〈白抜き数字番号〉をご指定の上、下記へご請求ください。

大空社出版 電話 (03)5963-4451

eigy@ozorasha.co.jp

※大空社出版ホームページ「お問合せ」  
からも承ります。

〈社会科学〉

(7) 明治期学術・言論雑誌集成

- III ドイツ学系 2誌 5リール 72,000円  
独逸学協会雑誌 (第1～66号、欠号60～64・67～70号)  
明治16年10月～22年3月 4リール  
学林 (第1～13号) 明治22年10月～23年10月 1リール
- IV 総合学術系 1誌 34リール 489,600円  
東洋学芸雑誌 (第1～567号) 明治14年10月～昭和5年2月

8 明治期社会科学翻訳書集成 山室信一 編集・解説 97リール 1,396,800円

- I 英学 (イギリス学) 76点179冊 34リール 489,600円
- II 英学 (アメリカ学) 31点80冊 15リール 216,000円
- III フランス学 46点104冊 23リール 331,200円
- IV ドイツ学 40点84冊 18リール 259,200円
- V 洋学総覧 19点27冊 7リール 100,800円



8

9 明治前期地方自治制刊行物集成

ナダ書房 編集 82リール 1,180,800円  
203点326冊 (慶応4～昭和24年)



9

10 月刊雑誌『自治機関』 28リール 504,000円

1巻1号～28巻335号 (明治33年2月～昭和3年1月)



10

※各セットに収録資料の「目録・  
解説」(冊子)が付いています。  
※冊子のみでもお求めできます。  
次頁をご覧ください。

〈軍隊〉

11 近代日本軍隊関係雑誌集成〈陸軍の部〉 榑原貴教 編集 226リール 3,661,200円

- I 近代軍隊形成期 (創成期から北清事変前後) 52リール 842,400円  
内外兵事新聞 (明治9～17年) 6リール/月曜会記事 (明治21～22年) 3リール  
保守新論 (明治22～23年) 1リール/偕行社記事 (明治21～34年) 42リール
- II 近代軍隊興隆期 (日露戦争～第一次大戦前) 45リール 729,000円  
偕行社記事 (明治35年～大正4年) 42リール/偕行社記事臨時 (明治37～39年) 3リール
- III 近代軍隊成熟期 (第一次大戦～昭和初期) 57リール 923,400円  
偕行社記事 (大正5年～昭和4年) 47リール/偕行社記事臨時増刊 (大正3～7年) 10リール
- IV 戦争の時代 (満洲事変～第二次大戦) 72リール 1,166,400円  
偕行社記事 (昭和5～16年) 48リール/偕行社記事特号 (昭和9～20年) 24リール



11 III・IV



11 I・II

12 近代日本軍隊関係雑誌集成〈海軍の部〉 榑原貴教 編集 83リール 1,344,600円

- V 海軍の部 (海軍確立期～第二次大戦)  
海軍雑誌 (明治16～20年) 8リール/水交雑誌 (明治20～23年) 3リール  
水交社記事 (明治23年～昭和19年) 72リール



12

〈産業・民芸・教育〉

13 明治期産業翻訳書集成 榑原貴教 編集 91リール 1,310,400円

- I 万国博覧会編 (1873～1893年) 23点82冊 12リール 172,800円
- II 農業編 (明治3～26年) 99点246冊 39リール 561,600円
- III 工業編 (明治4～29年) 97点151冊 32リール 460,800円
- IV 産業史編 (明治5～34年) 13点35冊 8リール 115,200円



13

14 明治期教育関係雑誌集成 35リール 672,000円

「教育勅語」以前・東京刊行24誌



14

15 児童教育史資料集成 唐澤富太郎所蔵・編集 70リール 840,000円

- I 寺子屋と児童、近代学校の成立、近代教育の中の児童 35リール 420,000円
- II 近代学校の確立、国定教科書の成立、国定三期教科書と児童、昭和期の教育と児童、  
高等小学校の教育、児童作品に現れた近代教育史、近代教育における児童の評価 35リール 420,000円



15

16 『工藝』『月刊民藝』 水尾比呂志 解題 30リール (モノクロ) 396,000円

『工藝』 昭和6年1月～昭和26年1月、全120号  
『月刊民藝』 昭和14年4月～昭和19年12月、全66号  
(昭和17年1月号から『民藝』に誌名変更)



16

No.	内容	リール数	価格(税別)	→
<b>1</b>	西洋文学移入史料集成	全 53	1,208,400 円	→
	Ⅰ 評伝編	19	433,200 円	
	Ⅱ 文学史・人名辞典編	11	250,800 円	
	Ⅲ 研究史・雑纂編 1	12	273,600 円	
	Ⅳ 研究史・雑纂編 2	11	250,800 円	
<b>2</b>	明治期翻訳文学書全集	全 212	3,199,200 円	
	Ⅰ イギリス文学編	46	607,200 円	→
	Ⅱ 米・仏・独・露・北欧・南欧文学編	50	660,000 円	→
	Ⅲ 露・北欧・英米文学編	42	655,200 円	→
	別集 黒岩涙香集	23	358,800 円	
	Ⅳ-1 西欧詩の移入	15	270,000 円	→
	Ⅳ-2 続・英米文学編	36	648,000 円	
<b>3</b>	近代日本黎明期文学書集成	全 119	1,713,600 円	→
	Ⅰ 開化期編	35	504,000 円	
	Ⅱ 自由民権期編	48	691,200 円	
	Ⅲ 政治小説編	36	518,400 円	
<b>4</b>	明治初期文学雑誌集成	全 80	1,344,000 円	
	Ⅰ 戯作・歌舞伎編	39	655,200 円	→
	Ⅱ 漢学・戯作系編	41	688,800 円	→
<b>5</b>	明治初期辞書集成 字類・字解・字引類	全 195	2,340,000 円	
	Ⅰ 歴史書より編纂された非辞書体辞書	50	600,000 円	→
	Ⅱ 地理書より編纂された非辞書体辞書	46	552,000 円	→
	Ⅲ 中国古典・修身書より編纂された非辞書体辞書	50	600,000 円	→
	Ⅳ 読本・自然科学書より編纂された非辞書体辞書	49	588,000 円	→
<b>6</b>	英学資料集成 国民英学会と中外英字新聞	27	468,000 円	→
<b>7</b>	明治期学術・言論雑誌集成	全 88	1,308,000 円	→
	Ⅰ イギリス学系	31	487,200 円	
	Ⅱ フランス学系	18	259,200 円	
	Ⅲ ドイツ学系	5	72,000 円	
	Ⅳ 総合学術系	34	489,600 円	
<b>8</b>	明治期社会科学翻訳書集成	全 97	1,396,800 円	→
	Ⅰ 英学(イギリス学)	34	489,600 円	
	Ⅱ 英学(アメリカ学)	15	216,000 円	
	Ⅲ フランス学	23	331,200 円	
	Ⅳ ドイツ学	18	259,200 円	
	Ⅴ 洋学総覧	7	100,800 円	
<b>9</b>	明治前期地方自治制刊行物集成	82	1,180,800 円	→
<b>10</b>	月刊雑誌『自治機関』	28	504,000 円	→
<b>11</b>	近代日本軍隊関係雑誌集成〈陸軍の部〉	全 226	3,661,200 円	
	Ⅰ 近代軍隊形成期(創成期から北清事変前後)	52	842,400 円	→
	Ⅱ 近代軍隊興隆期(日露戦争～第一次大戦前)	45	729,000 円	→
	Ⅲ 近代軍隊成熟期(第一次大戦～昭和初期)	57	923,400 円	→
	Ⅳ 戦争の時代(満洲事変～第二次大戦)	72	1,166,400 円	
<b>12</b>	近代日本軍隊関係雑誌集成〈海軍の部〉	83	1,344,600 円	→
	Ⅴ 海軍の部(海軍確立期～第二次大戦)			
<b>13</b>	明治期産業翻訳書集成	全 91	1,310,400 円	→
	Ⅰ 万国博覧会編(1873～1893年)	12	172,800 円	
	Ⅱ 農業編(明治3～26年)	39	561,600 円	
	Ⅲ 工業編(明治4～29年)	32	460,800 円	
	Ⅳ 産業史編(明治5～34年)	8	115,200 円	
<b>14</b>	明治期教育関係雑誌集成	35	672,000 円	(→)
<b>15</b>	児童教育史資料集成	全 70	840,000 円	
	Ⅰ 寺子屋と児童、近代学校の成立、近代教育の中の児童	35	420,000 円	→
	Ⅱ 近代学校の確立、国定教科書の成立、他	35	420,000 円	→
<b>16</b>	『工藝』『月刊民藝』	30	396,000 円	→

# 『マイクロフィルム版史料 目録・解説』

【総販売元】

大空社出版

電話 (03)5963-4451  
eigy@ozorasha.co.jp

目録 cNo.	書名	発行年	頁数	価格(税別)	備考
C1	西洋文学移入史料集成 目録	2003.5	50	2,000 円	『翻訳と歴史』 14号別冊コピー版
2 (明治期翻訳文学書全集)					
C2-1	明治期翻訳文学書全集 目録 I	1987.10	74	2,000 円	
C2-2	明治期翻訳文学書全集 目録 II	1988.8	120	4,000 円	
C2-3	明治期翻訳文学書全集 目録 III	1991.7	139	4,000 円	
C2-4	明治期翻訳文学書全集 目録 IV 付・明治翻訳文学再考	1996.1	143	4,000 円	
C3	近代日本黎明期文学書集成 目録	1990.3	213	5,000 円	
4 (明治初期文学雑誌集成)					
C4-1	明治初期文学雑誌集成 目録 I	1994.4	190	4,000 円	
C4-2	明治初期文学雑誌集成 検索目録 II	2005.3	24	1,000 円	コピー版
5 (明治初期辞書集成)					
C5-1	明治初期辞書集成 目録 I	1986.9	65	2,000 円	
C5-2	明治初期辞書集成 目録 II	1987.4	97	2,000 円	
C5-3	明治初期辞書集成 目録 III	1988.4	109	2,000 円	
C5-4	明治初期辞書集成 目録 IV	1989.2	279	6,000 円	
C6	磯辺弥一郎と『中外英字新聞』	1995.5	155	4,000 円	
C7	明治期学術・言論雑誌集成 別冊	1987.5	98	2,000 円	
C8	明治期社会科学翻訳書集成 別冊	1988.7	96	2,000 円	
C9	明治前期地方自治制刊行物集成 別冊	1990.4	155	4,000 円	
C10	月刊雑誌『自治機関』目録	2001.3	10	1,000 円	コピー版
11 (近代日本軍隊関係雑誌集成 (陸軍の部))					
C11-1	近代日本軍隊関係雑誌集成 目録 I	1991.3	129	4,000 円	
C11-2	近代日本軍隊関係雑誌集成 目録 II	1992.4	180	5,000 円	
C11-3	近代日本軍隊関係雑誌集成 目録 III・IV	1992.11	186	5,000 円	
C12	近代日本軍隊関係雑誌集成 目録 V	1993.9	135	4,000 円	
C13	明治期産業翻訳書集成 目録	1989.6	167	4,000 円	
※目録・解説は内容案内冊子⑭ (本カタログ 13 頁掲載。無料) に収録されています。					
15 (児童教育史資料集成)					
C15-1	児童教育史資料集成 I	1985.11	142	4,000 円	
C15-2	児童教育史資料集成 II	1986.7	75	2,000 円	
C16	『工藝』『月刊民藝』目録	1985.10	98	2,000 円	

1 マイクロフィルム各セットに収録の資料目録・解説です。  
現物資料に当たった詳細な書誌情報は、これだけで研究調査の強力なツールになります。  
2 体裁Ⅱ A5判・並製 (一部 A4 コピー版)  
3 ご注文は (直接・大空社出版へ) お申越してください。  
4 目録 No. でご指定ください。  
送料は、注文合計 1 万円 (税込) 以上の場合 (送料サービス) (1 万円未満は実費) です。



※一部に在庫が少ないものがあります。品切れの場合ご容赦ください。

※「コピー版」は冊子品切れのため複写 (A4 判) をご提供するものです。

(全 25 点合計 81,000 円 (税別))

# 明治翻訳文学全集

編集 川戸道昭・中林良雄・榊原貴教\*

近代・現代文学、比較文学・文化、言語、  
社会、歴史、思想、教育、芸術……  
日本と世界を再検証する窓——  
“翻訳”という視座はここに確立した！

《新聞雑誌編》\*《新聞雑誌編》編集協力

制作 ナダ出版センター  
発行 大空社 1996-2001

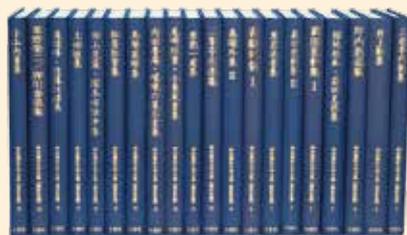
《翻訳家編》

発行 大空社/ナダ出版センター(共同出版)  
2002-2003

【体裁】B5判・上製・クロス装



《新聞雑誌編》  
全50巻・別巻2



《翻訳家編》  
全20巻

西欧作家別《新聞雑誌編》を縦系とし  
翻訳家ごとに巻別する《翻訳家編》を横系として  
明治期翻訳文学の全体像を浮かび上がらせる。

★《新聞雑誌編》《翻訳家編》収録作品に重複は1篇もありません。

●内容・構成 《新聞雑誌編》①作家別巻立て62名50巻(イギリス16巻/アメリカ6巻/フランス11巻/ドイツ2巻/ロシア10巻/北欧・南欧5巻) ②各巻頭口絵=作品(装幀・口絵・挿絵・誌面等)・作者・翻訳家の写真・肖像等 ③作家・翻訳家ごとの「明治翻訳文学年表」(新聞・雑誌・単行本)収録 ④各巻に研究者による作家・作品論、目録・書誌、また翻訳文学との関わりについての論考を掲載 ⑤別巻2(総合年表・総索引・総目次)  
《翻訳家編》翻訳家別巻立て24名20巻。新聞雑誌および単行の稀観書より収録。

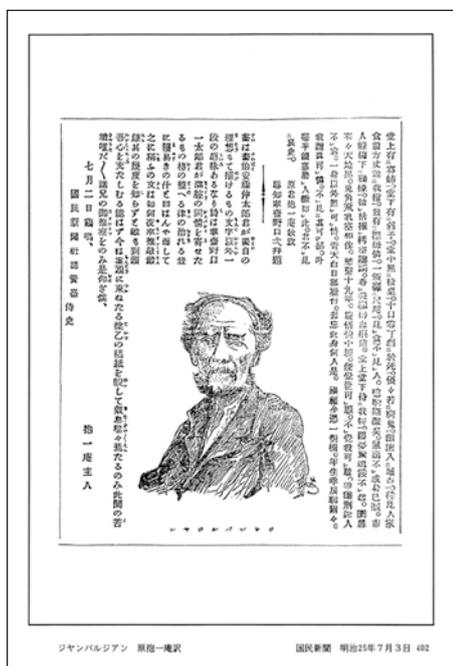
●収録体裁 ①作品発表順配列を基本、発表年月(新聞は年月日)を収録ページ欄外に作品名・翻訳者名と共に明示 ②作品は原則として発表掲載のまま該当ページを複製、新聞掲載作品はページの収まるように適宜編集

■全収録作品は、  
(大空社出版)ホームページに  
掲載しています。(各種目録)  
\*冊子カタログ進呈、ご請求下さい。

《新聞雑誌編》完結に際して(2001年5月)より

：なぜそのような作業(日本の近代の橋頭堡となった「翻訳」を洗い直し、日本の「近代」とは何であったのかと考えるための資料整備)が必要であると考えたのかといえ、関東大震災に遭遇し明治期の近代遺産を明らかにしようと努力した吉野作造を中心とする明治文化研究は近代を認識しこれを顕彰する地点から始められた。それは旧時代に比して新時代が限りなく明るく見えた時代を生きてきた人々の当然の思いであった。

これに反し、私たちは「西洋近代」を明るく見たいものばかりと見做すことができなくなっている時代を生きている。近代システムのひずみが日本においては明治の出版の中にすでに内蔵されていたことが明らかにされている。研究はいま「近代」の光と影を相対的に明示しなくてはならないだろう。すなわち、明治期の研究は自らの都合のよい遺産のみを顕彰するのでは済まなくなってきた。影を強調するということではなく、明治期に生きた日本人の社会現象を相対的に捉え直す必要に迫られている。その総体の中からその後の日本人が何を打ち捨て、何を顕彰してきたのかを再検討する必要がある。このことは些末な事柄が重要であるということではなく、現在立っている位相を相対化する遺産として欠かすことができないと考えるからである。



明治翻訳文学全集  
《新聞雑誌編》

\*各巻  
分売可

明治翻訳文学全集  
《翻訳家編》

全 50 巻・別巻 2			(各巻) 本体 16,500円 (本体 15,000円+税) ・別巻を除く
巻	書名(頁数)	刊行年	ISBN
1	シェイクスピア集 I (360頁)	1996.6	978-4-86688-111-9
2	シェイクスピア集 II (380頁)	1996.10	978-4-86688-112-6
3	シェイクスピア集 III (410頁)	1997.4	978-4-86688-113-3
4	シェイクスピア集 IV (450頁)	1997.10	978-4-86688-114-0
5	スコット／ブロンテ集 (380頁)	1999.12	978-4-86688-115-7
6	ディケンズ集 (430頁)	1996.6	978-4-86688-116-4
7	ステイブンソン集 (400頁)	1999.5	978-4-86688-117-1
8	ドイル集 (380頁)	1997.4	978-4-86688-118-8
9	コリンズ集 (350頁)	1998.11	978-4-86688-119-5
10	ワイルド集 (390頁)	1996.10	978-4-86688-120-1
11	サッカー／キャロル集 (380頁)	1999.5	978-4-86688-121-8
12	キプリング集 (370頁)	1998.5	978-4-86688-122-5
13	十八世紀イギリス文学集 (360頁)	2000.4	978-4-86688-123-2
14	リットン集 (430頁)	2000.10	978-4-86688-124-9
15	イギリス詩集 I (390頁)	1998.5	978-4-86688-125-6
16	イギリス詩集 II (390頁)	1998.11	978-4-86688-126-3
17	アーヴィング集 (310頁)	1997.10	978-4-86688-127-0
18	ホーソン集 (360頁)	1997.4	978-4-86688-128-7
19	ポー集 (390頁)	1996.6	978-4-86688-129-4
20	マーク・トウェイン集 (370頁)	1996.10	978-4-86688-130-0
21	バーネット集 (320頁)	2000.10	978-4-86688-131-7
22	アメリカ詩集 (320頁)	1999.12	978-4-86688-132-4
23	モリエール集 (380頁)	2000.4	978-4-86688-133-1
24	ユゴー集 I (450頁)	1996.10	978-4-86688-134-8
25	ユゴー集 II (440頁)	1998.5	978-4-86688-135-5
26	デュマ父子集 (400頁)	1997.4	978-4-86688-136-2
27	ヴェルヌ集 I (380頁)	1996.6	978-4-86688-137-9
28	ヴェルヌ集 II (410頁)	1997.10	978-4-86688-138-6
29	ドーデ集 (370頁)	1999.5	978-4-86688-139-3
30	ゾラ集 (400頁)	1998.11	978-4-86688-140-9
31	モーパッサン集 I (390頁)	1997.10	978-4-86688-141-6
32	モーパッサン集 II (400頁)	1999.12	978-4-86688-142-3
33	フランス文学集 (370頁)	2000.10	978-4-86688-143-0
34	ゲーテ／ハイネ集 (430頁)	1998.11	978-4-86688-144-7
35	シラー集 (350頁)	1999.12	978-4-86688-145-4
36	プーシキン／レー尔蒙トフ集 (360頁)	1999.12	978-4-86688-146-1
37	ゴーゴリ集 (380頁)	2000.4	978-4-86688-147-8
38	トルストイ集 I (360頁)	1997.10	978-4-86688-148-5
39	トルストイ集 II (380頁)	1999.5	978-4-86688-149-2
40	ツルゲーネフ集 I (390頁)	1996.10	978-4-86688-150-8
41	ツルゲーネフ集 II (360頁)	1997.4	978-4-86688-151-5
42	チャーホフ集 I (340頁)	1998.11	978-4-86688-152-2
43	チャーホフ集 II (350頁)	2000.4	978-4-86688-153-9
44	ゴロキヤ集 (440頁)	2000.10	978-4-86688-154-6
45	ドストエフスキー集 (370頁)	1998.5	978-4-86688-155-3
46	アンデルセン集 (340頁)	1996.6	978-4-86688-156-0
47	イブセン集 (470頁)	1998.5	978-4-86688-157-7
48	ストリンドベリ集 (310頁)	2000.10	978-4-86688-158-4
49	メーテルリンク集 (380頁)	1999.5	978-4-86688-159-1
50	イタリア文学集 (440頁)	2000.4	978-4-86688-160-7
別巻1	明治期翻訳文学総合年表 (360頁)	2001.5	別巻・2巻揃 (分売不可) 4-7568-0319-9
別巻2	総目次・総索引 (290頁)	2001.5	揃定価 38,500円 (本体 35,000円+税)

全 50 巻・別巻 2 総約 19,800 頁 揃定価 863,500 円 (本体 785,000円+税)

全 20 巻			(各巻) 本体 16,500円 (本体 15,000円+税)
巻	書名(頁数)	刊行年	ISBN
1	三遊亭円朝集 (310頁)	2002.6	978-4-86688-161-4
2	福地桜痴・益田克徳集 (470頁)	2003.7	978-4-86688-162-1
3	井上勤集 (460頁)	2002.6	978-4-86688-163-8
4	坪内逍遙集 (350頁)	2002.1	978-4-86688-164-5
5	森田思軒集 I (370頁)	2002.1	978-4-86688-165-2
6	森田思軒集 II (370頁)	2003.7	978-4-86688-166-9
7	黒岩涙香集 (380頁)	2003.3	978-4-86688-167-6
8	森鷗外集 I (380頁)	2002.1	978-4-86688-168-3
9	森鷗外集 II (390頁)	2002.6	978-4-86688-169-0
10	二葉亭四迷集 (360頁)	2002.1	978-4-86688-170-6
11	原抱一庵集 (330頁)	2003.3	978-4-86688-171-3
12	尾崎紅葉・小栗風葉集 (320頁)	2002.6	978-4-86688-172-0
13	内田魯庵・嵯峨の屋お室集 (350頁)	2002.6	978-4-86688-173-7
14	馬場孤蝶集 (400頁)	2003.3	978-4-86688-174-4
15	松居松葉集 (400頁)	2003.3	978-4-86688-175-1
16	田山花袋・国木田独歩集 (300頁)	2003.7	978-4-86688-176-8
17	上田敏集 (340頁)	2003.7	978-4-86688-177-5
18	森嶋峰・佐藤紅緑集 (380頁)	2003.7	978-4-86688-178-2
19	草野柴二・押川春浪集 (360頁)	2002.1	978-4-86688-179-9
20	小山内薫集 (320頁)	2003.3	978-4-86688-180-5

全20巻 総約7,350頁 揃定価330,000円(本体300,000円+税)

《翻訳家編》発刊に際して  
(2002年1月)より  
ここに選んだ24名の作家は、それぞれ異なる角度から近代日本の文化形成に積極的にかかわり、その中枢にいたる文学者たちであった。彼らが時代に対処し選択を迫られたものが、日本人の生き方の基層となつて今日の文化を形作ってきた。その近代像の正否を越えて、彼らの築いた精神の総体こそが私たちの内なる「近代」となっている。今日、翻訳研究が文化研究の名に値するのは、築かれた精神の総体を明らかにし、文化の足場を明らかにしていくことであろう。



国別・地域別	編	全巻数(1-16巻)	定価	本体
イギリス編	全16巻(1-16巻)	定価 264,000 円	本体 240,000 円+税	
	アメリカ編	全6巻(17-22巻)	定価 99,000 円	本体 90,000 円+税
フランス編	全11巻(23-33巻)	定価 181,500 円	本体 165,000 円+税	
	ドイツ編	全2巻(34,35巻)	定価 33,000 円	本体 30,000 円+税
ロシア編	全10巻(36-45巻)	定価 165,000 円	本体 150,000 円+税	
	北欧・南欧編	全5巻(46-50巻)	定価 82,500 円	本体 75,000 円+税

\*組合せ自由! たとえば地域別で

# シェイクスピア翻訳文学書全集 全45巻・別巻2

川戸道昭・榊原貴教 編集

A5判・上製・約12,600頁 (揃本体400,000円)

[企画：ナダ出版センター、発行：大空社 1999.1-2004.5刊 (全5回配本)]



## ■ 明治期に刊行されたシェイクスピア翻訳(翻案)作品の単行書をすべて網羅

●日本人が西欧の文学を受容しはじめた時、シェイクスピアはすでにヨーロッパにおいて最高の文学とみなされていた。その250年の解釈の蓄積も最高の扱いをもって迎えられた。この間の事情は、明治期に出版された夥しい数の翻訳・研究文献が物語っている。当時のシェイクスピア翻訳作品は他に比べて群を抜いており、単行書として刊行されたものだけを数えてみても六十点に達する。他の作品と合冊となったものを加えると優に八十点を上回っている。(…)

聖書と並んで欧米諸国の第一級の古典であったシェイクスピア作品は、こうした勢いをもって明治期の日本に上陸し、日本人の心にも浸透していった。ただ聖書と異なるのは、明治十年代に訳された聖書が、現行の口語訳と比較しても、精神とリズムを伝えるすぐれた翻訳と評価されているのに対し、シェイクスピアの明治期翻訳は古びたものと見なされている点である。しかし、本当にそうなのか。

シェイクスピアはヨーロッパ近代の世界的な広がりの中でその普遍性を獲得してきた。今日ポスト・モダンの社会で、近代の価値基準が揺らぎ、近代以前の秩序、

秩序の最高形態としての美意識があらためて高く評価されてきている。当時の知識人はその美意識を身につけて、西欧文化の摂取に向かっていった。坪内逍遙が『ジュリアス・シーザー』の浄瑠璃風翻訳を試みたのは、こうした文化的背景においてであった。ハムレットが明治四十年に山岸荷葉の『はむれつと』で射日野藩の葉村冠者年磨として登場するのも、日本というローカリティでヨーロッパ近代の普遍性を解釈しようとしていた証左といえる。地域を隔て時代を隔てた作品と向かいあう者は、いつもこのようにして作品が放つ精神の構造を理解し、解釈してきた。こうした営為が社会と文化の革新性を生み出してきた歴史を見る時、明治期のシェイクスピア翻訳はいささかも古びてはいない。むしろ、近代を考察する第一級資料として甦ってくる。(はじめに抄)

- 1回12巻(1-12巻) [1999.1] 4-7568-0536-1 定価105,600円(本体96,000円+税)
  1. 自由太刀餘波鋭鋒(坪内雄蔵訳、明治17)
  2. 人肉質入裁判(井上勤訳、明治16)他
  3. 春情浮世之夢(河島敬蔵訳、明治19)
  4. 冬物語・因果物語(仁田桂次郎訳、明治19)他
  5. 羅馬盛衰鑑(河島敬蔵・小宮山天香訳、明治19)
  6. セキスピア物語(品田太吉訳、明治19)
  7. シェイクスピア筋書(竹内余所次郎訳、明治19)他
  8. 当世二人女婿(依田学海編・長田秋涛訳、明治20)
  9. みなれぎを(和田万吉訳、明治21)他
  10. 鏡花水月(渡辺治訳、明治21)他
  11. 幽霊(井上勤訳、明治21)他
  12. 三人令嬢(条野採菊著、明治23)
- 2回12巻(13-24巻) [1999.10] 4-7568-0537-X 定価105,600円(本体96,000円+税)
  13. 人肉質入裁判法庭之場 講義録(磯辺弥一郎講述、明治24)他
  14. 想夫恋(竹葉散人著、明治25)他
  15. 痘痕伝七郎(条野伝平著、明治26)
  16. ハムレット(河島敬蔵注訳、明治35)他
  17. ゼ、マーチャント、オブ、ヴェニス(土肥春曙訳、明治36)他
  18. ハムレット(土肥春曙・山岸荷葉翻案、明治36)
  19. 沙翁物語集(小松武治訳、明治37)
  20. ハムレット(戸沢姑射訳、明治38)
  21. ロメオ エンド ジュリエット(戸沢姑射訳、明治38)
  22. ヴェニスの商人(浅野馮虚訳、明治39)
  23. オセロ(戸沢姑射訳、明治39)
  24. 新オセロ(太郎冠者著、明治39)他
- 品切 3回12巻(25-36巻) [2000.5] 4-7568-0538-8 (本体96,000円)
  25. リア王(戸沢姑射訳、明治39)
  26. ヴェニスの商人(菅野徳助・奈倉次郎訳註、明治40)他
  27. オセロ(菅野徳助・奈倉次郎訳註、明治42)他
  28. から騒ぎ(戸沢姑射訳、明治40)
  29. ジュリアス・シーザー(戸沢姑射訳、明治40)
  30. はむれつと(山岸荷葉翻案、明治40)
  31. 沙翁物語十種(小松月陵訳、明治40)
  32. 御意のまゝ(浅野馮虚訳、明治41)
  33. 行違ひ物語(戸沢姑射訳、明治41)
  34. 悲劇オセロ(菅野徳助訳註、明治42)
  35. シェイクスピア物語(百嶋操訳、明治42)他
  36. 十二夜(浅野馮虚訳、明治42)
- 品切 4回9巻(37-45巻) [2000.9] 4-7568-0539-6 (本体74,000円)
  37. ハムレット(坪内逍遙訳、明治42)
  38. 人肉質入裁判(吉岡向陽訳、明治43)他
  39. ロミオとジュリエット(坪内逍遙訳、明治43)
  40. オセロ(坪内逍遙訳、明治44)
  41. リア王(坪内逍遙訳、明治45)
  42. 明治10・20年代翻訳集(12編):高僧ウルゼーの詩(外山正一訳、明治15)他
  43. マクベス(坪内雄蔵訳、明治35)他
  44. 明治30年代翻訳集(6編):夏草(島崎藤村訳、明治32)他
  45. 明治40年代翻訳集(6編):ヴェニスの商人(坪内雄蔵訳、明治42)他
- 別巻「明治のシェイクスピア《総集編》」全2巻 [2004] 揃定価41,800円(本体38,000円+税)

■ 詳細案内は(大空社出版)にご請求ください。

## 別巻 明治のシェイクスピア《総集編》 全2巻

川戸道昭・榊原貴教 編集

A5判・上製・総約1000頁・口絵52頁 4-283-00141-4 揃定価41,800円(本体38,000円+税)

[企画：ナダ出版センター、発行：大空社 2004.5刊]

### ■ シェイクスピア受容過程と諸相を精緻に考証。図版多数・書誌・目録・年表・索引と研究論考。

[1] (論考) シェイクスピア受け入れの諸相 / シェイクスピア学の源流 / シェイクスピアの紹介と明治の西洋人名辞典 / 証言でたどる明治のシェイクスピア演劇:上演記録、脚本と配役、上演者の意図、観客の反応、特色・意義

(年表・作品編) シェイクスピア総合受容年表(天保11年~明治45年) / 総合受容年表・索引

[2: シェイクスピア図絵 付・資料と索引] 挿絵で見る明治のシェイクスピア / 序文で見るシェイクスピア / 明治期シェイクスピア翻訳文献 索引 / 大正・昭和・平成期シェイクスピア翻訳文学書目録

# ボードレール 明治・大正期翻訳作品集

川戸道昭・榎原貴教 編集

B5判・上製・430頁・カバー 978-4-283-01327-8 定価 22,000円（本体 20,000円＋税）

〔発行：大空社 / ナダ出版センター（共同出版） 2016.6 刊〕

■世界的遺産・詩人ボードレールの作品が日本人の精神史におよぼした軌跡を原典で見せる（復刻集成）。

●明治・大正期のボードレールの詩の翻訳量は、他のフランス詩人の翻訳に比べても比類ない。大正末年に至るまでに、すでに100点を越える翻訳が新聞雑誌に掲載された。そして、その影響は文学史家の想定を超えるものがあつた。ボードレール研究を単に「学問」的な狭量な研究にとどめず、日本人の精神史の一環としてとらえるならば、再検討の時期にきていると言える。

上田敏によって幕開けされたボードレールの日本語の翻訳は、蒲原有明、三木露風、永井荷風、内藤濯、仲田勝之助、三富朽葉、山村暮鳥、川路柳虹、大手拓次、堀口大学、谷崎潤一郎、相馬御風という、研究者ではなく、日本近代詩史の担い手たちによって行なわれてきた。ボードレールの詩は、単に日本の読者に届けられていただけでなく、詩人自らの詩作に刺戟を与え続けていた。日本の近代詩はその影響下で生成してきた。その軌跡を明らかにすることが、文学史と文化史の役割であり、また世界的遺産であるボードレールの作品に、現代日本人はいかなる評価と対処をなすべきか、当然フランスのボードレール研究者とは異なる見解が生れてきてもよいであろう。（刊行にあたって抄）



### 〔内容・特色〕

- ①明治・大正期に日本語訳されたボードレールの作品（詩・散文詩）を集成、発表年代順に編纂。
- ②可能な限り〈初出〉文献を採用し、新聞雑誌（一部単行書）に掲載の形を再現する復刻資料。
- ③収録作品名を網羅した初の翻訳史年表「ボードレール翻訳年表」（約50頁）付。

# 「翻訳詩」事典 フランス編

榎原貴教 編著

B5判・上製・560頁・カバー 978-4-908926-49-5 定価 30,800円（本体28,000円＋税）

〔発行：大空社出版・ナダ出版センター（共同出版） 2018.7 刊〕

■明治以降の「翻訳詩」の深奥で馥郁たる文学世界を膨大な原典引用（作品・詩論と翻訳者・原作者）で見せる真にユニークな“初の”「翻訳詩」事典

■膨大な言説の集積＝必読・不朽の資料で読む・見る翻訳詩と翻訳史。近代日仏文芸交流史の粋を結集

新組



### 〔構成〕

#### I 日本とフランス 編（約250頁）

日本近代の翻訳者と重要翻訳作品および文芸・文化・社会思潮関連の事項を〈**原典資料の引用**〉を主に構成する。500余点の著作・論文からの引用。項目約160（小見出し約340）は、翻訳と翻訳詩関連の研究テーマ・キーワードの宝庫。

#### II フランス詩人 編（約250頁）

原作詩人（主に19世紀以降30人弱）の明治以降の代表的紹介・論評を〈**原典資料の引用**〉で構成。また、代表作の翻訳を並列し比較・味読のための他にない資料とする。詩人別「翻訳総合年表」を付す。

参考文献（執筆者別引用文献リスト）索引（人名・件名・書名）



Iより

IIより



## 図説 絵本・挿絵大事典 全3巻

川戸道昭・榊原貴教 編著 ★《パンセ学術図書販売専売商品》お求めは「電話 078(945)7835」へ

B5判・上製・総約1,080頁 978-4-283-00621-8 揃定価 104,500円（本体 95,000円）

〔発行：大空社 / ナダ出版センター（共同出版）2008.11 刊〕

- 挿絵は美術と文学を橋渡しする。絵本・挿絵・画家を日本の児童書400年（江戸期～現代）の流れの中に初めて総合的に捉えた画期的事典。
- 約1200人の画家の列伝と作品掲載目録は〈類書で最多〉。

### 1. 図録 日本の児童書400年（全ページカラー） 480頁

- ①江戸期＝絵入版本の黎明－児童書のはじまり－江戸後期の児童書
- ②明治期＝近世から近代へ－近代児童文学への道
- ③大正・昭和（戦前）期＝芸術志向の高まり－大衆化の流れの中で
- ④昭和（戦後）期＝近代から現代へ
- \*索引編（キーワード索引、人名索引）

### 2・3. 絵本・挿絵画家事典（挿絵画家名五十音順） 総600頁

江戸時代から現代までの絵本・挿絵画家1200余名の列伝と作品掲載目録



■カラー図版1750余点  
モノクロ図版400点

## 図説 児童文学翻訳大事典 全4巻

★《パンセ学術図書販売専売商品》お求めは「電話 078(945)7835」へ

児童文学翻訳大事典編集委員会（代表 川戸道昭・榊原貴教）編

B5判・上製・総約1,760頁 978-4-283-00516-7 揃定価 132,000円（本体 120,000円）

〔発行：大空社 / ナダ出版センター（共同出版）2007.6 刊〕

- 日本の児童文学を「翻訳」の視点から捉え、〈訳文・挿絵・装丁〉を多数見せながら、児童文学史、装幀・挿絵原作者・作品（初訳とその後）、翻訳研究を総合的に結合した専門事典

### 1. 図説 日本の外国児童文学（全ページカラー） 420頁

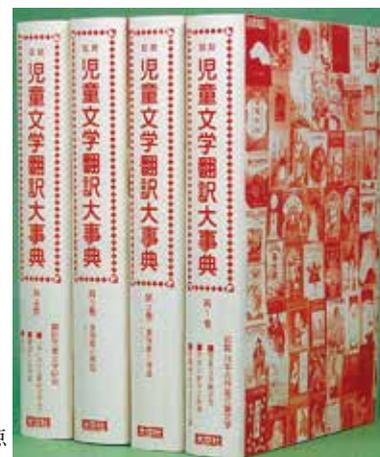
- ①児童文学翻訳史（児童文学・教育史・美術史・出版史の潮流を複合的に描く）
- ②名作の紹介と起源（前史英語教科書から各種全集収録作品120編の受容動向を鳥瞰）
- ③名場面・キャラクター集（ペロー、グリム、アンデルセン、イソップ等々の視覚的影響力は？）

### 2・3. 原作者と作品 総900頁

- ④原作者とその翻訳史事典（原作者名五十音順、150点の名作を約1000点の翻訳刊行物と1300点の挿絵で、初訳書き出し・その後の展開を具体的に見せながら紹介・解説）

### 4. 翻訳児童文学研究 440頁

- ⑤日本における翻訳児童文学（25名の研究者） ⑥翻訳作品年表・索引（書名・原作者・挿絵画家）



■カラー図版1500点  
モノクロ図版1300点

## 児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成の135年翻訳目録 全8巻

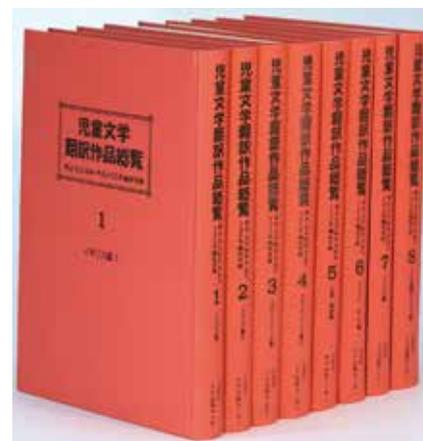
川戸道昭・榊原貴教 編

B5判・上製・総約3,930頁 揃定価 154,000円（本体 140,000円）

〔発行：大空社 / ナダ出版センター（共同出版）2005.6-2006.3 刊（全4回配本）〕

- 児童文学がいかなるイメージ・言葉で翻訳されてきたか、訳例と挿絵で鮮明にたどる総合書誌
- カラー口絵100余頁、第一線の研究論考、作家別翻訳総合年表、索引（訳者別翻訳、挿絵画家、出版社・新聞雑誌別）

- 1回2巻 [2005.6] 880頁（口絵カラー16頁） 4-283-00434-0
- 1. イギリス編1 2. イギリス編2
- 2回2巻 [2005.9] 1060頁（口絵カラー32頁） 4-283-00435-9
- 3. フランス・ドイツ編1 4. フランス・ドイツ編2
- 3回2巻 [2005.12] 950頁（口絵カラー28頁） 4-283-00436-7
- 5. 北欧・南欧編 6. スペイン・ロシア編
- 4回2巻 [2006.3] 1040頁（口絵カラー28頁） 4-283-00437-5
- 7. アメリカ編 8. 千一夜物語・イソップ編



各回（2巻揃）定価 38,500円（本体 35,000円＋税）

川戸道昭・榊原貴教 編著

B5判・上製・総9,550頁 揃定価513,700円(本体467,000円+税)

[発行：大空社 / ナダ出版センター(共同出版) 2014.11-2016.8刊]

近代日本語は「翻訳」との遭遇によってその核心部分が形成されてきた。  
近代日本語が形成される「現場」がここにある。

## 刊行のことば

編者

口語文と文語文の乖離を指摘し、日本語の改良を初めて政府に提言したのは、前島密であった。提言は徳川慶喜への建議書のかたちを取って上申し、その方法を国文教育の改善に求め、学制の改革に托そうとしたことは、今日残されている『国字国文改良建議書』によって明白である。

その後の日本語改良運動の流れは前例にならない、明治政府に働きかけ、教育の啓蒙活動により、言文一致運動の成果獲得へと邁進していく。これらは、前島密が改良の目的を、自らの知的営為の源泉であった漢字を「支那字の頑毒」と批判して、国字改良を「國家富強を爲すの礎地御坐候」と述べたように、社会形成の一環として推し進められてきた。すなわち、近代日本語の形成は、近代国民国家を招来してきた啓蒙思想の一翼を担う、「上からの民主化」として行なわれてきた。

日本の近代文学もまた、啓蒙思想の普及の過程から発生してきた。読本、仮名草子からの脱却が始まったのは、西洋文学との遭遇による。しかし、文学界は明治十年代末の欧化熱反動⇨国粹運動の渦中にも、西欧文学の心酔者たちは国粹化と西欧化の狭間に身を裂かれながら、表現の場で暗中模索を始めた。社会的には富国強兵の体制に与しながらも、内面的には西欧が生み出した近代リアリズムとその表現方法の日本語化を求めて苦闘する。

日本語改良主義者たちは、言文一致運動の名の下に、ことばの表現の安易化を求め続けたのに対し、美妙、二葉亭、嵯峨のや、紅葉、思軒、魯庵という西欧文学に魅惑された文学者たちは、思想表現としての言語の緻密化に挑戦し始める。その闘いの成果は、明治二十年代の東京で一挙に開花していくことになる。いったん挫折した日本語改良主義者の啓蒙運動は、文学者の成果の礎の上で、明治三十年代の国家の強権化と共に再開され、国定教科書の中で成就されていく。

本集成は、このような歴史認識の下で、表現者としての翻訳家に主軸を置き、そのバック・グラウンドとして従来の近代語形成資料(「言文一致の鬼」といわれた山本正秀先生の研究に多く依拠する)を再点検し、編者なりの考えに基づき編集した。考えの基本は、近代日本語は翻訳との遭遇によってその核心部分が形成されてきたとの確信による。本資料集成が、今後の近代日本語研究の基本資料として活用されることを願うものである。

二〇一四年一月

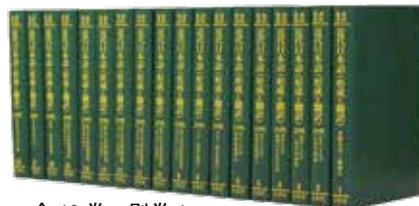
## 全巻構成

第1回配本	第1巻 総目次+総索引(第2〜18巻統合索引)
第2回配本	第2巻 挑戦する文体・山田美妙集
第3回配本	第3巻 懐疑する文体・二葉亭四迷集
第4回配本	第4巻 理想の文体・嵯峨のやおむる集
第5回配本	【文体編】(第5〜8巻)
第5巻	苦渋する文体・尾崎紅葉集①
第6巻	苦渋する文体・尾崎紅葉集②
第7巻	言文一致作品集①
第8巻	罪と罰(ドストエフスキー作、内田魯庵訳)
第9巻	言文一致作品集②
第9巻	原作⇨ポー、ホフマン、ディケンズ、アンデルセン、ゾラ他 訳者⇨饗庭壘村、森鷗外、若松賤子、内田魯庵、森田思軒他
第3回配本	【史料編】(第9〜13巻)
第9巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 江戸期 あゆみ抄(安永2)、唐詩選解(天明4)
第10巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期① 格賢勃斯英文直訳(明治3)、ピネラ氏英文直訳(明治3)
第11巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期② 国字国文改良建議書(前島密)、民権自由論(植木枝盛) 他
第12巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期③ ことばの写真法(丸山平次郎)、日本新字発明(小島一騰) 他
第13巻	近代日本語形成資料(刊本の部) 明治期④ 言文一致(物集高見)、言文一致(言文一致研究会) 他
第4回配本	【史料編】(第14〜16巻)
第14巻	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ① 計90件収録
第15巻	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部) ② 計104件収録
第16巻	演説・記事論説集 計63件収録
第5回配本	【史料編】(第17・18巻)
第17巻	国語改良異見 計70件収録
第18巻	現代名家文章大観 計166件収録
別巻	欧米文学の翻訳と近代文章語の形成 漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ

巻	書名	編	頁	ISBN	定価(税込)	(本体)
1	総目次+総索引		240頁	978-4-86688-201-7	15,400円	(14,000円)
2	挑戦する文体・山田美妙集	文体編 (2~8巻)	520頁	978-4-86688-202-4	28,600円	(26,000円)
3	懐疑する文体・二葉亭四迷集		520頁	978-4-86688-203-1	28,600円	(26,000円)
4	理想の文体・嵯峨のやおむる集		520頁	978-4-86688-204-8	28,600円	(26,000円)
5	苦渋する文体・尾崎紅葉集①		570頁	978-4-86688-205-5	30,800円	(28,000円)
6	苦渋する文体・尾崎紅葉集②		500頁	978-4-86688-206-2	28,600円	(26,000円)
7	言文一致作品集①		630頁	978-4-86688-207-9	33,000円	(30,000円)
8	言文一致作品集②		430頁	978-4-86688-208-6	24,200円	(22,000円)
9	近代日本語形成資料(刊本の部)江戸期		史料編 (9~18巻)	630頁	978-4-86688-209-3	33,000円
10	近代日本語形成資料(刊本の部)明治期①	430頁		978-4-86688-210-9	16,500円	(15,000円)
11	近代日本語形成資料(刊本の部)明治期②	630頁		978-4-86688-211-6	27,500円	(25,000円)
12	近代日本語形成資料(刊本の部)明治期③	560頁		978-4-86688-212-3	28,600円	(26,000円)
13	近代日本語形成資料(刊本の部)明治期④	410頁		978-4-86688-213-0	24,200円	(22,000円)
14	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部)①	520頁		978-4-86688-214-7	28,600円	(26,000円)
15	近代日本語形成資料(新聞雑誌の部)②	530頁		978-4-86688-215-4	28,600円	(26,000円)
16	演説・記事論説集	550頁		978-4-86688-216-1	29,700円	(27,000円)
17	国語改良異見	460頁		978-4-86688-217-8	24,200円	(22,000円)
18	現代名家文章大観	590頁		978-4-86688-218-5	33,000円	(30,000円)
別巻	欧米文学の翻訳と近代文章語の形成		310頁	978-4-283-01188-5	22,000円	(20,000円)

\*各巻分売可

B5判・上製・クロス装



全18巻・別巻1  
揃定価 513,700円 (本体 467,000円 + 税)

必読!  
本資料集と  
関連研究への  
総合的「道案内」



別巻  
欧米文学の翻訳と近代文章語の形成  
漢文対応の日本語から欧文対応の日本語へ  
川戸道昭著

■内容詳細は(大空社出版)ホームページ(各種目録)をご覧ください。  
・冊子ご希望の場合はご請求ください。

〈目次(抄)〉 口絵(図録) 近代日本語形成史 [カラー16頁]

[第1部] 欧文の直訳に基づく日本語の初期化と再構成 [約160頁] 序章 新文章語創造運動の本質 / 『繫思談』の出現 / 周密文体から言文一致体へ / 新文章語創造運動の本質: 〈能く人に通じる直訳文体〉の創造 [第2部] 文末辞からたどる近代文章語の形成 [約110頁] 序章 欧文との比較から見えてくるもの / 新文章語のはじまり: 外国語教育における「である」文の普及 / 文学界における展開: 常体文章語としての「である」文の成立 / 翻訳から創作へ: 自由間接話法の発見とその展開 [付録] 若松賤子と「小公子」: 児童文学の翻訳と新文体の形成 [史料集] 藤田茂吉・尾崎庸夫「繫思談例言」(明治18年)ほか [年表] 日本近代文体史(常体編)

## 大正期翻訳文学画像集成 雑誌編 (CD-ROM) 全6枚

川戸道昭・中林良雄・榎原貴教 編

[ナダ出版センター 2003-2004刊] 各定価 20,900円(本体19,000円+税)

### ■ 翻訳文化の熟成期 = 明治末から大正期の日本を風靡した6作家を雑誌「誌面」で読む!

● 現代文学の母体は翻訳文学であり、大正期はその花が爛漫と開いた時代であった。そして、明治末から大正期の日本を風靡した西欧作家こそ、現代日本人の意識の基底音を培った文学者であった。この現場を解説しない限り、日本における文学創造とは何か、文化の創造とは何か、さらにその創造が何を達成したのかという問いは、羅針盤を失った研究となる。

その研究が急務であるにもかかわらず、関東大震災と第二次世界大戦の焼尽により、明治の文化遺産のみか、大正期の文化遺産もまた基礎資料の多くが失われ、今日にいたっている。とりわけ、雑誌はその盛衰が甚だしい故に散逸し、著名なものも長期にわたるために全号通して関する困難性が重なり、研究は立ち遅れている。(…) 本資料集は、単行書、新聞雑誌の原典に当たる労力を厭わぬ調査に基づき、時代を風靡していった作家を量的・質的に秤量し、選択し巻構成をなした。(刊行に際して抄)

1. メーテルリンク 100冊の雑誌から集成
2. トルストイ 200冊の雑誌から集成
3. ドストエフスキー 75冊の雑誌から集成
4. ストリンドベリ 105冊の雑誌から集成
5. モーパッサン 120冊の雑誌から集成
6. ワイルド 70冊の雑誌から集成



\* 目次を兼ねた年代順メニュー  
\* 索引を兼ねた「訳名一覧」「訳者一覧」  
\* 図書・雑誌・新聞を含む詳細な作家別翻訳年表

〈動作環境〉 \* Windows8/10の通常環境で動作確認済  
・ブラウザはフレーム対応HTML  
・ISO-9660フォーマット CD-ROMを読み出せるPC



[ナダ出版センター刊]

近代日本の翻訳作品を徹底して調査・発掘する過程で得た、新発見や生れたての着想・論説を速報的に記録してきたユニークな雑誌

### 翻訳と歴史 文学・社会・書誌

第1号(2000年7月)~第60号(2012年6月・終刊)

\* <ナダ出版センター> ホームページに全目次掲載

### 鳴海文庫 文学・社会・書誌

第1号(2015年5月)~第7号(2017年12月・終刊)

◎在庫、入手方法などは(大空社出版)へお問合せください。

# ナダ出版センター 刊行物一覧 <2022年8月>

掲載ページ	書名	ISBN	定価 (本体+税10%)	備考	✓
2	明治期グリム童話翻訳集成 (全5巻) *残部僅少	4-901061-05-4	96,800円 (本体88,000円+税)		
3	日本におけるグリム童話翻訳書誌 *残部僅少	4-931522-07-6	3,850円 (本体3,500円+税)		
4	明治期シャーロック・ホームズ翻訳集成 (全3巻)	4-901061-06-2	55,000円 (本体50,000円+税)		
5	日本におけるシャーロック・ホームズ	4-931522-09-2	6,050円 (本体5,500円+税)		
6	黒岩涙香の研究と書誌	4-7727-0354-3	6,050円 (本体5,500円+税)		
7	夏目漱石の研究と書誌	4-931522-10-6	6,600円 (本体6,000円+税)		
8	日本におけるサミュエル・ジョンソンおよびジェイムズ・ボズウェル文献目録	4-931522-11-4	7,700円 (本体7,000円+税)		
9	ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究	4-931522-08-4	7,700円 (本体7,000円+税)		
10	ロシア文化の森へ 比較文化の総合研究 第2集	4-931522-12-2	8,800円 (本体8,000円+税)		
11-15	<ナダ書房> マイクロフィルム版史料/目録・解説	—	—	14,15 頁参照	
16	明治翻訳文学全集《新聞雑誌編》(全50巻・別巻2)	—	863,500円 (本体785,000円+税)	各巻分売可	
16	明治翻訳文学全集《翻訳家編》(全20巻)	—	330,000円 (本体300,000円+税)	各巻分売可	
18	シェイクスピア翻訳文学書全集 (全45巻・別巻2)	—	—	一部品切	
18	〃 別巻「明治のシェイクスピア《総集編》」(全2巻)	4-283-00141-4	41,800円 (本体38,000円+税)		
19	ボードレール 明治・大正期翻訳作品集	978-4-283-01327-8	22,000円 (本体20,000円+税)		
19	「翻訳詩」事典 フランス編	978-4-908926-49-5	30,800円 (本体28,000円+税)		
20	世界文学総合目録 (全10巻・別巻1)	—	290,400円 (本体264,000円+税)		
20	図説 翻訳文学総合事典 (全5巻)	978-4-283-00743-7	132,000円 (本体120,000円+税)		
21	図説 絵本・挿絵大事典 (全3巻)	978-4-283-00621-8	104,500円 (本体95,000円+税)	バンセ学術図書販売専売	
21	図説 児童文学翻訳大事典 (全4巻)	978-4-283-00516-7	132,000円 (本体120,000円+税)	バンセ学術図書販売専売	
21	児童文学翻訳作品総覧 明治大正昭和平成の135年翻訳目録 (全8巻)	—	154,000円 (本体140,000円+税)		
22	資料集成 近代日本語〈形成と翻訳〉(全18巻・別巻1)	—	513,700円 (本体467,000円+税)	各巻分売可	
23	大正期翻訳文学画像集成・雑誌編(CD-ROM)(全6枚)	—	各20,900円 (各本体19,000円+税)		

## <ナダ出版センター> ホームページについて

\* 「ナダ出版センター」の刊行物・出版案内を掲載しています。

本カタログに収録できなかった内容詳細や資料(目録・年表など)の情報も公開しています。

\* ご注文、お問合せ、資料請求などはすべて<大空社出版>で承ります。下記へお申越してください。



<ナダ出版センター> 出版物  
【総販売元】

学術資料出版

# 大空社出版

東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

TEL:03-5963-4451 / FAX:03-5963-4461

www.ozorasha.co.jp

eigy@ozorasha.co.jp